

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士前期課程		研究分野／領域	古代中世文学																																
授業コード	M1000	授業科目	古代文学特論 I																																
担当者	東城 敏毅	授業形態	講義																																
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II																														
授業概要	『万葉集』を取り上げ、古代和歌の知識を習得しつつ、日本の和歌がいかに形成されていったのかを、七・八世紀の時代背景をも詳細に概観しながら考察する。また、万葉歌の表現方法・表記方法の多様性と特色を、古代和歌史の視点も取り入れながら考察する。																																		
到達目標	『万葉集』を通して、古代和歌の知識・読解の方法を学ぶ。また『万葉集』の表現方法・表記方法の多様性とその特色を理解し、古代和歌研究の問題意識を見出す手がかりをつかむ。																																		
成績評価基準	授業内活動とレポートによって総合的に評価する。																																		
留意事項	一部、演習形式を取り入れる。																																		
教材	授業時に適宜指示する。																																		
授業予定	<table border="0"> <tr> <td>第1回 授業ガイダンス</td> <td>第16回 平城京の世界観と平城びとの生活</td> </tr> <tr> <td>第2回 上代文学史概説</td> <td>第17回 遣唐使と天平の時代</td> </tr> <tr> <td>第3回 万葉集の概要と成立</td> <td>第18回 山部赤人の世界</td> </tr> <tr> <td>第4回 万葉集の表記方法</td> <td>第19回 大伴旅人の世界</td> </tr> <tr> <td>第5回 万葉集の諸伝本と注釈史</td> <td>第20回 山上憶良の世界①</td> </tr> <tr> <td>第6回 巻頭歌の意義</td> <td>第21回 山上憶良の世界②</td> </tr> <tr> <td>第7回 舒明天皇の時代</td> <td>第22回 高橋虫麻呂の世界</td> </tr> <tr> <td>第8回 額田王の世界①</td> <td>第23回 大伴家持の世界①</td> </tr> <tr> <td>第9回 額田王の世界②</td> <td>第24回 大伴家持の世界②</td> </tr> <tr> <td>第10回 大和三山の歌</td> <td>第25回 東歌、防人歌、様々な歌人の世界</td> </tr> <tr> <td>第11回 有間皇子挽歌</td> <td>第26回 万葉集享受の歴史①</td> </tr> <tr> <td>第12回 大津皇子・大伯皇女の歌</td> <td>第27回 万葉集享受の歴史②</td> </tr> <tr> <td>第13回 持統天皇の時代</td> <td>第28回 レポート指導①</td> </tr> <tr> <td>第14回 柿本人麻呂の世界①</td> <td>第29回 レポート指導②</td> </tr> <tr> <td>第15回 柿本人麻呂の世界②</td> <td>第30回 授業の総括</td> </tr> </table>					第1回 授業ガイダンス	第16回 平城京の世界観と平城びとの生活	第2回 上代文学史概説	第17回 遣唐使と天平の時代	第3回 万葉集の概要と成立	第18回 山部赤人の世界	第4回 万葉集の表記方法	第19回 大伴旅人の世界	第5回 万葉集の諸伝本と注釈史	第20回 山上憶良の世界①	第6回 巻頭歌の意義	第21回 山上憶良の世界②	第7回 舒明天皇の時代	第22回 高橋虫麻呂の世界	第8回 額田王の世界①	第23回 大伴家持の世界①	第9回 額田王の世界②	第24回 大伴家持の世界②	第10回 大和三山の歌	第25回 東歌、防人歌、様々な歌人の世界	第11回 有間皇子挽歌	第26回 万葉集享受の歴史①	第12回 大津皇子・大伯皇女の歌	第27回 万葉集享受の歴史②	第13回 持統天皇の時代	第28回 レポート指導①	第14回 柿本人麻呂の世界①	第29回 レポート指導②	第15回 柿本人麻呂の世界②	第30回 授業の総括
第1回 授業ガイダンス	第16回 平城京の世界観と平城びとの生活																																		
第2回 上代文学史概説	第17回 遣唐使と天平の時代																																		
第3回 万葉集の概要と成立	第18回 山部赤人の世界																																		
第4回 万葉集の表記方法	第19回 大伴旅人の世界																																		
第5回 万葉集の諸伝本と注釈史	第20回 山上憶良の世界①																																		
第6回 巻頭歌の意義	第21回 山上憶良の世界②																																		
第7回 舒明天皇の時代	第22回 高橋虫麻呂の世界																																		
第8回 額田王の世界①	第23回 大伴家持の世界①																																		
第9回 額田王の世界②	第24回 大伴家持の世界②																																		
第10回 大和三山の歌	第25回 東歌、防人歌、様々な歌人の世界																																		
第11回 有間皇子挽歌	第26回 万葉集享受の歴史①																																		
第12回 大津皇子・大伯皇女の歌	第27回 万葉集享受の歴史②																																		
第13回 持統天皇の時代	第28回 レポート指導①																																		
第14回 柿本人麻呂の世界①	第29回 レポート指導②																																		
第15回 柿本人麻呂の世界②	第30回 授業の総括																																		

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士前期課程		研究分野／領域	古代中世文学																																
授業コード	M1010	授 業 科 目	古代文学特論Ⅱ																																
担 当 者	原 豊二	授 業 形 態	講義																																
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II																														
授 業 概 要	源氏物語の帚木巻ならびに竹河巻を読解する。 源氏物語研究の基礎的な方法論を講義する。																																		
到 達 目 標	源氏物語本文の内容を正確に理解することができる。 源氏物語研究の基礎を習得する。																																		
成 績 評 価 基 準	発表とレポートを課す。																																		
留 意 事 項	一部を演習形式とする。																																		
教 材	源氏物語 帚木巻と竹河巻（どの出版社のものでも構わないが、受講者の方で準備すること）																																		
授 業 予 定	<table border="0"> <tr> <td>1、授業ガイダンス</td> <td>16、源氏物語の「語り」</td> </tr> <tr> <td>2、源氏物語の研究法</td> <td>17、源氏物語の「書くこと」</td> </tr> <tr> <td>3、帚木巻読解（1）</td> <td>18、竹河巻読解（1）</td> </tr> <tr> <td>4、帚木巻読解（2）</td> <td>19、竹河巻読解（2）</td> </tr> <tr> <td>5、帚木巻読解（3）</td> <td>20、竹河巻読解（3）</td> </tr> <tr> <td>6、帚木巻読解（4）</td> <td>21、竹河巻読解（4）</td> </tr> <tr> <td>7、帚木巻読解（5）</td> <td>22、竹河巻読解（5）</td> </tr> <tr> <td>8、帚木巻読解（6）</td> <td>23、竹河巻読解（6）</td> </tr> <tr> <td>9、帚木巻読解（7）</td> <td>24、竹河巻読解（7）</td> </tr> <tr> <td>10、帚木巻読解（8）</td> <td>25、竹河巻読解（8）</td> </tr> <tr> <td>11、帚木巻読解（9）</td> <td>26、竹河巻読解（9）</td> </tr> <tr> <td>12、帚木巻読解（10）</td> <td>27、竹河巻読解（10）</td> </tr> <tr> <td>13、帚木巻読解（11）</td> <td>28、竹河巻読解（11）</td> </tr> <tr> <td>14、帚木巻読解（12）</td> <td>29、竹河巻読解（12）</td> </tr> <tr> <td>15、前期のまとめ</td> <td>30、後期のまとめ</td> </tr> </table>					1、授業ガイダンス	16、源氏物語の「語り」	2、源氏物語の研究法	17、源氏物語の「書くこと」	3、帚木巻読解（1）	18、竹河巻読解（1）	4、帚木巻読解（2）	19、竹河巻読解（2）	5、帚木巻読解（3）	20、竹河巻読解（3）	6、帚木巻読解（4）	21、竹河巻読解（4）	7、帚木巻読解（5）	22、竹河巻読解（5）	8、帚木巻読解（6）	23、竹河巻読解（6）	9、帚木巻読解（7）	24、竹河巻読解（7）	10、帚木巻読解（8）	25、竹河巻読解（8）	11、帚木巻読解（9）	26、竹河巻読解（9）	12、帚木巻読解（10）	27、竹河巻読解（10）	13、帚木巻読解（11）	28、竹河巻読解（11）	14、帚木巻読解（12）	29、竹河巻読解（12）	15、前期のまとめ	30、後期のまとめ
1、授業ガイダンス	16、源氏物語の「語り」																																		
2、源氏物語の研究法	17、源氏物語の「書くこと」																																		
3、帚木巻読解（1）	18、竹河巻読解（1）																																		
4、帚木巻読解（2）	19、竹河巻読解（2）																																		
5、帚木巻読解（3）	20、竹河巻読解（3）																																		
6、帚木巻読解（4）	21、竹河巻読解（4）																																		
7、帚木巻読解（5）	22、竹河巻読解（5）																																		
8、帚木巻読解（6）	23、竹河巻読解（6）																																		
9、帚木巻読解（7）	24、竹河巻読解（7）																																		
10、帚木巻読解（8）	25、竹河巻読解（8）																																		
11、帚木巻読解（9）	26、竹河巻読解（9）																																		
12、帚木巻読解（10）	27、竹河巻読解（10）																																		
13、帚木巻読解（11）	28、竹河巻読解（11）																																		
14、帚木巻読解（12）	29、竹河巻読解（12）																																		
15、前期のまとめ	30、後期のまとめ																																		

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士前期課程		研究分野／領域	古代中世文学		
授業コード	M1020	授 業 科 目	中世文学特論 I		
担 当 者	木下 華子	授 業 形 態	講義（演習を含む）		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	中世前期における和歌（特に長歌）を取り上げる。院政期・鎌倉初期までの和歌史を概観し、特に12世紀における長歌の精読を通して、和歌史における長歌の意義と変遷を追う。				
到 達 目 標	1 古典文学読解の基本とも言える和歌に関する知識・読解の方法を身に付ける。 2 作品を文学史的視野から理解し、問題意識を見出すことができるようになる。				
成 績 評 価 基 準	・演習形式の発表などの授業内活動 40%（到達目標1、2） ・期末レポート 60%（到達目標1、2）				
留 意 事 項	一部、演習形式を取り入れる。				
教 材	授業中に配布する。				
授 業 予 定	01：導入 02：和歌史の概観①奈良時代 03：和歌史の概観②平安時代前期 04：和歌史の概観③平安時代後期（院政期） 05：和歌史の概観④平安時代末期～鎌倉時代初頭 06：平安時代の長歌①古今和歌集 07：平安時代の長歌②堀河百首 08：平安時代の長歌③久安百首 09：平安時代の長歌④詩序との関係 10：久安百首概説 11：長歌の読解と検討①崇徳院 12：長歌の読解と検討②藤原公能 13：長歌の読解と検討③藤原教長 14：長歌の読解と検討④藤原顕輔 15：前期まとめ 16：長歌の読解と検討⑤藤原季通 17：長歌の読解と検討⑥藤原隆季 18：長歌の読解と検討⑦藤原親隆 19：長歌の読解と検討⑧藤原実清 20：長歌の読解と検討⑨藤原顕広（俊成） 21：長歌の読解と検討⑩藤原清輔 22：長歌の読解と検討⑪待賢門院堀川 23：長歌の読解と検討⑫上西門院兵衛 24：長歌の読解と検討⑬待賢門院安芸 25：長歌の読解と検討⑭小大進 26：崇徳院と長歌 27：藤原俊成と長歌 28：長歌短歌の説 29：近世国学者と長歌 30：後期まとめ —— 文学史上の長歌				

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士前期課程		研究分野／領域	古代中世文学		
授業コード	M1030	授 業 科 目	中世文学特論Ⅱ		
担 当 者	海野 圭介	授 業 形 態	講義（演習を含む）		
期 間	集中	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	中世前期の勅撰和歌集の成立と伝来、伝本、享受等の諸問題について考える。具体的には12世紀（院政期）に撰集された『金葉和歌集』の成立と性格、伝本の伝来形態などについて、本学正宗敦夫文庫に所蔵される『金葉和歌集』古写本を対象として、鎌倉時代～江戸時代にかけて書写された写本や版本（一部）の調査を行い、研究上の課題を浮かび上がらせる。また、古典籍の取り扱いについての技術面における知識を得る。				
到 達 目 標	古典作品の成立と古典籍伝本の関係、その享受と伝来などについて学ぶ。古典籍を取り扱うための基礎的技術を習得する。				
成 績 評 価 基 準	授業中の報告（50%）、授業中及び授業末のレポート等の課題（50%）				
留 意 事 項	鉛筆（シャープペンシル不可）、ナイロンまたは布製のメジャー（金属製不可）、手を拭くためのタオルを持参して下さい。				
教 材	プリント等を用いる。				
授 業 予 定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1, 金葉和歌集研究と正宗敦夫【講義】</li> <li>2, 正宗文庫、正宗敦夫文庫とその蔵書【講義】</li> <li>3, 金葉和歌集の古写本についての概括(1) 鎌倉時代写本【演習を含む】</li> <li>4, 金葉和歌集の古写本についての概括(2) 南北朝期写本【演習を含む】</li> <li>5, 金葉和歌集の古写本についての概括(3) 室町期写本【演習を含む】</li> <li>6, 和歌史上の金葉和歌集【講義】</li> <li>7, 金葉和歌集の研究史概括【講義】</li> <li>8, 金葉和歌集の伝本研究【講義】</li> <li>9, 金葉和歌集の本文研究【講義】</li> <li>10, 金葉和歌集の本文の検討方法【講義】</li> <li>11, 金葉和歌集の本文の検討(1) 検討方法について【講義】</li> <li>12, 金葉和歌集の本文の検討(2) 検討作業【演習】</li> <li>13, 金葉和歌集の本文の検討(3) 検討作業（継続）【演習】</li> <li>14, 金葉和歌集の本文の検討についての中間検証【演習を含む】</li> <li>15, 金葉和歌集の本文の検討についての討議【演習を含む】</li> <li>16, 金葉和歌集の本文の検討(4) 検討作業（継続）【演習】</li> <li>17, 金葉和歌集の本文の検討(5) 検討作業（継続）【演習】</li> <li>18, 金葉和歌集古写本の調査と検討(1)【講義】</li> <li>19, 金葉和歌集古写本の調査と検討(2)【演習】</li> <li>20, 金葉和歌集古写本の調査と検討(3)（継続）【演習】</li> <li>21, 金葉和歌集古写本の調査と検討(4)（継続）【演習】</li> <li>22, 金葉和歌集古写本の調査と検討(5)（継続）【演習】</li> <li>23, 金葉和歌集古写本の調査と検討(6)（継続）【演習】</li> <li>24, 金葉和歌集古写本の調査と検討(7)（継続）【演習】</li> <li>25, 金葉和歌集古写本の調査と検討(8)（継続）【演習】</li> <li>26, 金葉和歌集の三奏本の版本【演習を含む】</li> <li>27, 印刷文化史上の古活字版【演習を含む】</li> <li>28, 版本と国学者書き入れ本の形態(1)【演習を含む】</li> <li>29, 版本と国学者書き入れ本の意義(2)【演習を含む】</li> <li>30, 総括【講義】</li> </ol>				

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士前期課程		研究分野／領域	古代中世文学																																
授業コード	M1050・M1060	授 業 科 目	古代中世文学演習																																
担 当 者	東城敏毅・原 豊二	授 業 形 態	演習																																
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I ~ II																														
授 業 概 要	学生の選んだテーマを中心にして、資料の取り上げ方、研究文献の収集とその扱い方、資料分析の方法、多角度からの考察の試行等の訓練をする。																																		
到 達 目 標	修士論文作成																																		
成 績 評 価 基 準	作成した論文等の達成度によって判断する。																																		
留 意 事 項	数多くの文献を読みこなすこと。																																		
教 材	適宜指示する。																																		
授 業 予 定	<table border="0"> <tr> <td>1、 修士論文作成内容の検討</td> <td>16、 第二章第二章の作成と検討</td> </tr> <tr> <td>2、 論文の方法論の検討</td> <td>17、 第二章第三節の作成と検討</td> </tr> <tr> <td>3、 論文の構成の検討</td> <td>18、 第三章第一節の作成と検討</td> </tr> <tr> <td>4、 目次の作成と検討</td> <td>19、 第三章第二節の作成と検討</td> </tr> <tr> <td>5、 作品内容分析（1）</td> <td>20、 第三章第三節の作成と検討</td> </tr> <tr> <td>6、 作品内容分析（2）</td> <td>21、 第四章第一節の作成と検討</td> </tr> <tr> <td>7、 作品内容分析（3）</td> <td>22、 第四章第二節の作成と検討</td> </tr> <tr> <td>8、 関連資料の収集と分析（1）</td> <td>23、 第四章第三節の作成と検討</td> </tr> <tr> <td>9、 関連資料の収集と分析（2）</td> <td>24、 第五章第一節の作成と検討</td> </tr> <tr> <td>10、 目次の再検討</td> <td>25、 第五章第二節の作成と検討</td> </tr> <tr> <td>11、 序論の作成と検討</td> <td>26、 第五章第三節の作成と検討</td> </tr> <tr> <td>12、 第一章第一節の作成と検討</td> <td>27、 結論の作成と検討</td> </tr> <tr> <td>13、 第一章第二節の作成と検討</td> <td>28、 章段のタイトルの作成と検討</td> </tr> <tr> <td>14、 第一章第三節の作成と検討</td> <td>29、 注の作成と検討</td> </tr> <tr> <td>15、 第二章第一節の作成と検討</td> <td>30、 巻末資料の作成と検討</td> </tr> </table>					1、 修士論文作成内容の検討	16、 第二章第二章の作成と検討	2、 論文の方法論の検討	17、 第二章第三節の作成と検討	3、 論文の構成の検討	18、 第三章第一節の作成と検討	4、 目次の作成と検討	19、 第三章第二節の作成と検討	5、 作品内容分析（1）	20、 第三章第三節の作成と検討	6、 作品内容分析（2）	21、 第四章第一節の作成と検討	7、 作品内容分析（3）	22、 第四章第二節の作成と検討	8、 関連資料の収集と分析（1）	23、 第四章第三節の作成と検討	9、 関連資料の収集と分析（2）	24、 第五章第一節の作成と検討	10、 目次の再検討	25、 第五章第二節の作成と検討	11、 序論の作成と検討	26、 第五章第三節の作成と検討	12、 第一章第一節の作成と検討	27、 結論の作成と検討	13、 第一章第二節の作成と検討	28、 章段のタイトルの作成と検討	14、 第一章第三節の作成と検討	29、 注の作成と検討	15、 第二章第一節の作成と検討	30、 巻末資料の作成と検討
1、 修士論文作成内容の検討	16、 第二章第二章の作成と検討																																		
2、 論文の方法論の検討	17、 第二章第三節の作成と検討																																		
3、 論文の構成の検討	18、 第三章第一節の作成と検討																																		
4、 目次の作成と検討	19、 第三章第二節の作成と検討																																		
5、 作品内容分析（1）	20、 第三章第三節の作成と検討																																		
6、 作品内容分析（2）	21、 第四章第一節の作成と検討																																		
7、 作品内容分析（3）	22、 第四章第二節の作成と検討																																		
8、 関連資料の収集と分析（1）	23、 第四章第三節の作成と検討																																		
9、 関連資料の収集と分析（2）	24、 第五章第一節の作成と検討																																		
10、 目次の再検討	25、 第五章第二節の作成と検討																																		
11、 序論の作成と検討	26、 第五章第三節の作成と検討																																		
12、 第一章第一節の作成と検討	27、 結論の作成と検討																																		
13、 第一章第二節の作成と検討	28、 章段のタイトルの作成と検討																																		
14、 第一章第三節の作成と検討	29、 注の作成と検討																																		
15、 第二章第一節の作成と検討	30、 巻末資料の作成と検討																																		

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士前期課程		研究分野／領域	近世近代文学		
授業コード	M1100	授 業 科 目	近世文学特論 I		
担 当 者	山本 秀樹	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	高校の教科書・副読本にも取り上げられることのある代表的日本近世文学作品『雨月物語』中の2編を取り上げ、これまでの理解史をふまえ、その問題点を確認し、今日持つべき作品理解と研究の方向性を見究め、研究的理解の幅を広げる。				
到 達 目 標	日本近世文学作品の読解法・理解法・解釈法を知り、それを研究するということがどのような内容を持つことなのかを知り、考え、理解の幅を広げること。				
成 績 評 価 基 準	各回その都度、学生との間で質疑応答をし、講義に関する理解度をはかる際の態度・理解度、および講義の内容について概要を記すレポートの記述の質による。				
留 意 事 項	特になし。				
教 材	ふさわしい講義資料を適宜プリントを作成して配布する。				
授 業 予 定	第1回：『雨月物語』概説 第2回：この授業で取り上げる『雨月物語』中の1編に関する概説 第3回：テキストの内容を一通り把握する（1）（序盤） 第4回：テキストの内容を一通り把握する（2）（中盤） 第5回：テキストの内容を一通り把握する（3）（終盤） 第6回：『上田秋成研究事典』で確認するこれまでの研究史の概略 第7回：解釈史の背後に隠れている戦後日本の思想史・世代史 第8回：解釈研究の出発（昭和30年代） 第9回：歴史社会学派の解釈 第10回：主題論の展開 第11回：近年の新しい動向 第12回：それ以外の個別的視点による研究 第13回：今何を問題とするべきなのか 第14回：テキストの真の読解のために（テキスト論） 第15回：総括とひとまずの結論と課題 第16回：『雨月物語』概要をふりかえる 第17回：この授業で取り上げる『雨月物語』中のもう1編に関する概説 第18回：テキストの内容を一通り把握する（1）（序盤） 第19回：テキストの内容を一通り把握する（2）（中盤） 第20回：テキストの内容を一通り把握する（3）（終盤） 第21回：本編執筆の材料となった文献一覧の確認（諸注釈・先行研究の確認） 第22回：本編執筆の材料となった文献自体の基本文献・注釈書等について 第23回：執筆材料となった文献とテキスト（序盤）を比較する。 第24回：執筆材料となった文献とテキスト（中盤）を比較する。 第25回：執筆材料となった文献とテキスト（終盤）を比較する。 第26回：執筆材料となった文献が存在しない（とされる）部分をどう考えるか。 第27回：先行論文の中で研究史の節目となった論文の解釈を整理する。 第28回：論じることとテキストを理解することとの距離を認識すること。 第29回：テキストについて「論じる」とは、本質的にどのような作業であったのか。 第30回：テキスト理解から飛躍しない論をめざして。				

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士前期課程		研究分野／領域	近世近代文学		
授業コード	M1110	授 業 科 目	近代文学特論Ⅲ		
担 当 者	山根 道公	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	日本の近代文学においてキリスト教と関わりのある文学作品を取り上げ、作品に即してキリスト教的主題や聖書的表現など文学研究上の課題についての分析方法を考察し、読解を試みる。				
到 達 目 標	キリスト教や聖書との関係のある作品を、キリスト教的主題や聖書的表現等に着目して分析、読解する技術を習得する。				
成 績 評 価 基 準	受講姿勢およびレポートにより総合的に評価する。				
留 意 事 項	演習形式も取り入れる。				
教 材	授業中に適宜指示する。				
授 業 予 定	1、導入。2、日本文学とキリスト教概説。3、北村透谷。4、徳富蘆花。5、国木田独歩。6、島崎藤村。7、山村暮鳥。8、正宗白鳥。9、有島武郎。10、志賀直哉。11、長与善郎。12、武者小路実篤。13、賀川豊彦。14、芥川龍之介。15、堀辰雄。16、太宰治。17、北条民雄。18、内村鑑三。19、倉田百三。20、吉満義彦。21、小林秀雄。22、亀井勝一郎。23、三木露風。24、八木重吉。25、中原中也。26、宮沢賢治。27、椎名麟三。28、遠藤周作。29、三浦綾子。30、まとめ				

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士前期課程		研究分野／領域	近世近代文学		
授業コード	M1120	授 業 科 目	近代文学特論 I		
担 当 者	山根 知子	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	日本近代文学（小説および詩・児童文学を扱う）における作品研究・作家研究に取り組み、さまざまな分析方法を模索し、具体的な論を試行する。また、受講者各自の研究課題に応じて具体的な研究方法や表現手法の幅を広げる。				
到 達 目 標	作品研究・作家研究ともに、設定したねらいに応じた効果的な方法論を工夫して確立するすべを身につけ、具体的に説得力のある論考を実践できること。				
成 績 評 価 基 準	授業内での課題の取り組みと論文により総合的に評価する。				
留 意 事 項	自分の研究方法の可能性を広げることに努め、研究内容に応じた効果的かつ客観性の高い研究方法を臨機応変に実行できるようにし、実際に自分の修士論文についての方法論を確立すること。				
教 材	授業中に指示する。				
授 業 予 定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、近代文学研究方法論について</li> <li>2、作品研究の実例について</li> <li>3、作品研究から作家研究への実例について</li> <li>4、作品成立研究について</li> <li>5、作品年譜について</li> <li>6、作家年譜について</li> <li>7、作家関連資料について</li> <li>8、同時代資料と作品・作家研究について</li> <li>9、明治文学研究</li> <li>10、大正文学研究</li> <li>11、昭和文学研究</li> <li>12、短詩形文学研究</li> <li>13、児童文学研究</li> <li>14、論文の構成について</li> <li>15、論文の方法論について</li> <li>16、論文の論理的展開について</li> <li>17、論文の文章について</li> <li>18、中間論文に対する評価</li> <li>19、論文の構成についての検討</li> <li>20、論文の方法論についての検討</li> <li>21、論文の論理的展開についての検討</li> <li>22、論文の文章についての検討</li> <li>23、研究史について</li> <li>24、先行研究一覧について</li> <li>25、研究史の跡づけについて</li> <li>26、先行研究に対する評価について</li> <li>27、先行研究についての検討</li> <li>28、研究史についての検討</li> <li>29、研究の新しさについて</li> <li>30、期末レポート提出と評価</li> </ol>				



文学研究科 日本語日本文学専攻 博士前期課程		研究分野／領域	近世近代文学		
授業コード	M1130	授 業 科 目	近代文学特論Ⅱ		
担 当 者	綾目 広治	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	大正期から現代に至るまでの文芸批評史を展望する。代表的な評論、および文学論争の読解を通して、現代文学史において何が問題にされてきたのか、さらにそれらの問題と社会との関わりについて考察する。さらに大衆小説に焦点を絞って、作家や出版者さらに読者などからなる出版文化と、その歴史的意義についても考察する。従って、この講義は社会的な視野から見た現代文学史の講義であり、また、広い意味での現代社会思想史でもある。				
到 達 目 標	社会の問題と関わる現代批評、現代思想についての展望を得る。				
成 績 評 価 基 準	演習での発表。				
留 意 事 項	当該テキスト以外にも関連文献を幅広く読む。				
教 材	適宜指示する。				
授 業 予 定	1. 文学研究方法論    2. 歴史小説    3. 戦後文学    4. 時代小説    5. 原爆文学				

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士前期課程		研究分野／領域	近世近代文学		
授業コード	M1151・M1160・M1170	授 業 科 目	近世近代文学演習		
担 当 者	綾目広治・山根知子・山根道公	授 業 形 態	演習		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I ~ II
授 業 概 要	学生の選んだテーマを中心として、資料の取りあげ方、研究文献の収集とその扱い方、資料分析の方法、多角度からの考察の試行等の訓練をする。				
到 達 目 標	修士論文作成				
成 績 評 価 基 準	作成した論文等の達成度によって判断する。				
留 意 事 項	数多くの文献を読みこなすこと。				
教 材	適宜指示する。				
授 業 予 定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、 修士論文作成内容の検討</li> <li>2、 論文の方法論の検討</li> <li>3、 論文の構成の検討</li> <li>4、 目次の作成と検討</li> <li>5、 作品内容分析</li> <li>6、 作品関係の資料収集と分析</li> <li>7、 作家関係の資料収集と分析</li> <li>8、 同時代の資料収集と分析</li> <li>9、 研究史・先行研究の収集と分析</li> <li>10、 目次の再検討</li> <li>11、 序論の作成と検討</li> <li>12、 第一章第一節の作成と検討</li> <li>13、 第一章第二節の作成と検討</li> <li>14、 第一章第三節の作成と検討</li> <li>15、 第二章第一節の作成と検討</li> <li>16、 第二章第二節の作成と検討</li> <li>17、 第二章第三節の作成と検討</li> <li>18、 第三章第一節の作成と検討</li> <li>19、 第三章第二節の作成と検討</li> <li>20、 第三章第三節の作成と検討</li> <li>21、 第四章第一節の作成と検討</li> <li>22、 第四章第二節の作成と検討</li> <li>23、 第四章第三節の作成と検討</li> <li>24、 第五章第一節の作成と検討</li> <li>25、 第五章第二節の作成と検討</li> <li>26、 第五章第三節の作成と検討</li> <li>27、 結論の作成と検討</li> <li>28、 章節のタイトルについての検討</li> <li>29、 注の作成と検討</li> <li>30、 巻末資料の作成と検討</li> </ol>				

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士前期課程		研究分野／領域	日本語学		
授業コード	M1200	授業科目	古代語特論		
担当者	三宅 ちぐさ	授業形態	講義		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II
授業概要	古代語は、多様であり、散文か韻文か、散文も更に和文系か漢文系か等と細分類できる。そこで、その記載様式ごとに、語彙・意味・表記・文法・文体等の多面的視点から、できる限り古代語の実態を確認する。又、研究法や研究成果等を学ぶと同時に、その知識・理解をより深め、現代語へのつながり等も認識すべく調査・分析などを実践する。				
到達目標	1、古代語の実態を分野別・時代別に理解すること 2、古代語の背景にある文化・価値観などを認識すること 3、現代語へのつながりを認識すること				
成績評価基準	1、受講態度（積極性・問題意識 など） 2、レポート（問題意識・論理性・精確さ など）				
留意事項	本年度は往来物を中心とする予定だが、受講者の専門分野や必要性も考慮の上で決定することとする。				
教材	必要に応じ随時紹介や配布をする。				
授業予定	前期 1 はじめに 目的の確認・時代区分など 2 往来物とは（1） 形式・用語など 3 往来物とは（2） 時代別特徴 4 往来物とは（3） 種類と普及度 5 『庭訓往来』の表記（1） 調査 6 『庭訓往来』の表記（2） 確認 7 『庭訓往来』の内容（1） 調査 8 『庭訓往来』の内容（2） 確認 9 『庭訓往来』の語彙（1） 調査 10 『庭訓往来』の語彙（2） 確認 11 『庭訓往来』の語彙（3） 古辞書との関わり調査 12 『庭訓往来』の語彙（4） 古辞書との関わり確認 13 『庭訓往来』の文体（1） 調査 14 『庭訓往来』の文体（2） 確認 15 まとめ 後期 1 『女庭訓往来』の位置 2 『女庭訓往来』の表記（1） 調査 3 『女庭訓往来』の表記（2） 確認 4 『女庭訓往来』の内容（1） 調査 5 『女庭訓往来』の内容（2） 背景 6 『女庭訓往来』の内容（3） 確認 7 『女庭訓往来』の語彙（1） 調査 8 『女庭訓往来』の語彙（2） 確認 9 『女庭訓往来』の文体（1） 調査 10 『女庭訓往来』の文体（2） 確認 11 その他の往来物の場合（1） 調査 12 その他の往来物の場合（2） 確認 13 比較 14 考察 15 まとめ				

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士前期課程		研究分野／領域	日本語学		
授業コード	M1210	授 業 科 目	現代語特論		
担 当 者	尾崎 喜光	授 業 形 態	講義（演習を含む）		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	文学作品を読んで私たちが感動するのはどこにあるのかについて「表現」という観点から考える。第1期は、下記の教材を精読・議論することで、言語学的観点からの文学作品の見方についての基礎力を養う。第2期は、それを踏まえ、文学作品に現れる表現を実際に調査・分析する。				
到 達 目 標	文学作品を言語学的観点から分析する方法を理解するとともに、実際に調査・分析する力を養う。				
成 績 評 価 基 準	授業内活動、研究レポートにより評価する。				
留 意 事 項	第2期はPCを用いてのデータベースの作成と分析を予定する。エクセルを使える環境を整えておくこと。				
教 材	中村明著（2016）『日本の一文30選』（岩波新書）〔ISBN：978-4-00-431620-6〕				
授 業 予 定	<p>【第1期】</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：教材の精読・解説・議論（1）「第一章 この人この文」（前半）</p> <p>第3回：教材の精読・解説・議論（2）「第一章 この人この文」（後半）</p> <p>第4回：教材の精読・解説・議論（3）「第二章 たった一言の威力」（前半）</p> <p>第5回：教材の精読・解説・議論（4）「第二章 たった一言の威力」（後半）</p> <p>第6回：教材の精読・解説・議論（5）「第三章 風景、人、心、そして時間」（前半）</p> <p>第7回：教材の精読・解説・議論（6）「第三章 風景、人、心、そして時間」（後半）</p> <p>第8回：教材の精読・解説・議論（7）「第四章 イメージに語らせる」（前半）</p> <p>第9回：教材の精読・解説・議論（8）「第四章 イメージに語らせる」（後半）</p> <p>第10回：教材の精読・解説・議論（9）「第五章 順序と反復のテクニク」</p> <p>第11回：教材の精読・解説・議論（10）「第六章 耳を揺する響き」</p> <p>第12回：教材の精読・解説・議論（11）「第七章 曖昧さの幅と奥行」</p> <p>第13回：教材の精読・解説・議論（12）「第八章 文章のふくらみ」</p> <p>第14回：教材の精読・解説・議論（13）「第九章 開閉の妙」</p> <p>第15回：教材の精読・解説・議論（14）「第十章 文は人なり」</p> <p>【第2期】</p> <p>第16回：調査対象とする文学作品の検討（1）－フリーディスカッション－</p> <p>第17回：調査対象とする文学作品の検討（2）－候補の検討と確定－</p> <p>第18回：データベース化の検討（1）－フリーディスカッション－</p> <p>第19回：データベース化の検討（2）－データベースのデザインの確定－</p> <p>第20回：第一作品の試行的データベース化とその検討</p> <p>第21回：第一作品の分析結果の発表と検討</p> <p>第22回：第一作品の分析結果の再発表と検討－前回の議論を受けての再発表－</p> <p>第23回：第一作品の分析結果の再々発表と検討－前回の議論を受けての再々発表－</p> <p>第24回：第二作品の分析結果の発表と検討</p> <p>第25回：第二作品の分析結果の再発表と検討－前回の議論を受けての再発表－</p> <p>第26回：第二作品の分析結果の再々発表と検討－前回の議論を受けての再々発表－</p> <p>第27回：第三作品の分析結果の発表と検討</p> <p>第28回：第三作品の分析結果の再発表と検討－前回の議論を受けての再発表－</p> <p>第29回：第三作品の分析結果の再々発表と検討－前回の議論を受けての再々発表－</p> <p>第30回：総括</p>				

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士前期課程		研究分野／領域	日本語学		
授業コード	M1220	授 業 科 目	生活語特論		
担 当 者	尾崎 喜光	授 業 形 態	演習		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	現代の話し言葉の多様性の一つである地域による言葉の違いすなわち「方言」について、中国地方を中心とする専門書を読み理解を深めた上で、当該地方を舞台として設定する文学作品等において方言がどのように使われているかについて研究する。				
到 達 目 標	方言とりわけ中国地方の方言の特徴について理解を深めるとともに、それを踏まえ、当該地方を舞台として設定する文学作品等の会話部分に現れる方言をどのように分析するかについて担当教員と議論・検討して研究方法を確定し、実際に調査・分析を行なう力を養う。				
成 績 評 価 基 準	授業内活動、研究レポートにより評価する。				
留 意 事 項	PCでの分析、データベースの作成を必須とする。ワード、エクセルを使える環境を整えておくこと。				
教 材	飯豊毅一他編（1982）『講座方言学 8 中国・四国地方の方言』（国書刊行会） 〔ISBN：4-336-01979-7〕 *現在では入手困難であることが予想される。その場合は図書館等に入れてある本を授業で利用する。				
授 業 予 定	<p>【第1期】</p> 第1回：ガイダンス 第2回：教材の精読と解説 (1) 「1 中国方言の概説」 第3回：教材の精読と解説 (2) 「2 中国方言の語彙」 第4回：教材の精読と解説 (3) 「3 岡山県の方言」 第5回：教材の精読と解説 (4) 「4 広島県の方言」 第6回：教材の精読と解説 (5) 「5 山口県の方言」 第7回：教材の精読と解説 (6) 「6 鳥取県の方言」 第8回：教材の精読と解説 (7) 「7 島根県の方言」 第9回：教材の精読と解説 (8) 「8 中国方言と国語教育」 第10回：分析対象とする小説についての検討 (1) -地域- 第11回：分析対象とする小説についての検討 (2) -時代- 第12回：データの蓄積方法についての検討 (1) -地域- 第13回：データの蓄積方法についての検討 (2) -時代- 第14回：予備的分析の報告と検討 (1) -地域- 第15回：予備的分析の報告と検討 (2) -時代- <p>【第2期】</p> 第16回：夏季休暇の間の進捗状況についての確認 第17回：分析対象とする小説についての再検討 (1) -地域- 第18回：分析対象とする小説についての再検討 (2) -時代- 第19回：中間分析の報告と検討 (1) -地域- 第20回：中間分析の報告と検討 (2) -時代- 第21回：分析の観点に関する再検討 第22回：分析の観点に関する再検討を受けての予備的分析の報告 (1) -地域- 第23回：分析の観点に関する再検討を受けての予備的分析の報告 (2) -時代- 第24回：分析報告と検討 (1) -地域別- 第25回：分析報告と検討 (2) -時代別- 第26回：分析報告と検討 (3) -作家別- 第27回：分析報告と検討 (4) -作品別- 第28回：分析報告と検討 (5) -ジャンル別- 第29回：分析報告と検討 (6) -総合- 第30回：総括				

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士前期課程		研究分野／領域	日本語学		
授業コード	M1240	授 業 科 目	日本語表現特論		
担 当 者	三宅 ちぐさ	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	語彙・意味・表記・文法・文体等の多面的視点から、分かりやすい表現とはどのようなものかを確認する。その研究法や研究成果等を学ぶと同時に、その知識・理解をより深め確かなものとするため、身近な文章を材料に調査・分析なども実践する。				
到 達 目 標	1、日本語表現における分かりやすさとは、どのようなことかを理解すること 2、目的・対象等にあった表現の多様性を認識すること 3、「ことば」の問題に、より敏感になること				
成 績 評 価 基 準	1、受講態度（積極性・問題意識 など） 2、レポート（問題意識・論理性・精確さ など）				
留 意 事 項	必要に応じ、随時相談や説明をする。				
教 材	受講者の専門分野をも考慮しつつ、必要に応じ随時紹介や配布をする。				
授 業 予 定	1期 1 はじめに 分かりやすさの前提 2 日本語表現における分かりやすさとは（1） 3 日本語表現における分かりやすさとは（2） 4 分かりやすさと意義・興味 5 文章の種類と分かりやすさ（1） 6 文章の種類と分かりやすさ（2） 7 語彙との関係（1） 8 語彙との関係（2） 9 語彙との関係（3） 10 語彙との関係（4） 11 意味・表記との関係（1） 12 意味・表記との関係（2） 13 意味・表記との関係（3） 14 意味・表記との関係（4） 15 まとめ 2期 1 文法・構文との関係（1） 2 文法・構文との関係（2） 3 文法・構文との関係（3） 4 文法・構文との関係（4） 5 構成との関係（1） 6 構成との関係（2） 7 構成との関係（3） 8 構成との関係（4） 9 文体との関係（1） 10 文体との関係（2） 11 文体との関係（3） 12 文体との関係（4） 13 文体との関係（5） 14 文体との関係（6） 15 まとめ				

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士前期課程		研究分野／領域	日本語学		
授業コード	M1251	授 業 科 目	日本語学演習		
担 当 者	尾崎 喜光	授 業 形 態	演習		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I ~ II
授 業 概 要	各自の研究課題について社会言語学的観点から検討する。 先行研究や資料分析の方法について討論する。				
到 達 目 標	修士論文作成の基礎となる先行研究の探し方、分析データの収集方法・分析方法を修得する。また、各自の研究課題への問題意識を深化させる。				
成 績 評 価 基 準	授業内活動、研究レポートにより評価する。				
留 意 事 項	発表用レポートの作成を要する。				
教 材	修士論文作成に参照する研究論文および研究書。				
授 業 予 定	<p>【第1期】</p> 第1回：ガイダンス 第2回：研究計画についての発表と検討(1) 第3回：研究計画についての発表と検討(2) 第4回：研究計画についての発表と検討(3) 第5回：先行研究の探し方(1) 第6回：先行研究の探し方(2) 第7回：研究発表と議論(1)－1巡目－ 第8回：研究発表と議論(2)－1巡目－ 第9回：研究発表と議論(3)－1巡目－ 第10回：研究計画についての再検討(1) 第11回：研究計画についての再検討(2) 第12回：研究発表と議論(4)－2巡目－ 第13回：研究発表と議論(5)－2巡目－ 第14回：研究発表と議論(6)－2巡目－ 第15回：夏季休暇期間の研究の進め方についての検討 <p>【第2期】</p> 第16回：進捗状況の確認と第2期の研究計画についての検討 第17回：研究発表と議論(7)－3巡目－ 第18回：研究発表と議論(8)－3巡目－ 第19回：研究発表と議論(9)－3巡目－ 第20回：論文執筆指導(1)－1巡目－ 第21回：論文執筆指導(2)－1巡目－ 第22回：論文執筆指導(3)－1巡目－ 第23回：論文執筆指導(4)－2巡目－ 第24回：論文執筆指導(5)－2巡目－ 第25回：論文執筆指導(6)－2巡目－ 第26回：論文執筆指導(7)－3巡目－ 第27回：論文執筆指導(8)－3巡目－ 第28回：論文執筆指導(9)－3巡目－ 第29回：論文執筆指導(10)－4巡目－ 第30回：論文執筆指導(11)－4巡目－				

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士前期課程		研究分野／領域	専門関連科目		
授業コード	M1300	授 業 科 目	日本思想史特論		
担 当 者	八重樫 直比古	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	欽明天皇13年10月条の仏教伝来の記事をはじめとして『日本書紀』には伝来当初の仏教の姿を伝える記事が多く収められている。ただし仏教関係記事に限らず、『日本書紀』には虚構の色彩の濃厚なものが多い。そこで、仏教関係の記事から、『日本書紀』を編纂した人々が、仏教をどのようなものと捉え、また仏教に何を期待していたのかを明らかにする。それをもって8世紀初頭の支配者層の思想を窺う。				
到 達 目 標	『日本書紀』の変則的な漢文の姿に触れる。またテキストから編者を読むとは、どのようなことか、またそこから何が分かるのかを知る。				
成 績 評 価 基 準	前期・後期最終回のコメント・質疑応答(50%)、および前期・後期各1回提出のレポート(50%)。				
留 意 事 項	注釈や現代語訳などに広く深く目を通し、その上でテキストを自力で読み込むことに努める。				
教 材	担当者が毎回、資料を用意する。				
授 業 予 定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開講に当たっての1年間の予定、『日本書紀』を読むことの魅力と留意点。</li> <li>2 『日本書紀』概説。</li> <li>3 仏教関係記事を読むために、顕宗紀から『書紀』の思想の一端にふれる(1)。</li> <li>4 仏教関係記事を読むために、顕宗紀から『書紀』の思想の一端にふれる(2)。</li> <li>5 仏教関係記事を読むために、欽明紀から『書紀』の思想の一端にふれる(1)。</li> <li>6 仏教関係記事を読むために、欽明紀から『書紀』の思想の一端にふれる(2)。</li> <li>7 仏教関係記事を読むために、欽明紀から『書紀』の思想の一端にふれる(3)。</li> <li>8 欽明紀の仏教関係記事(1)百済の造仏。</li> <li>9 欽明紀の仏教関係記事(2)仏教伝来の記事解説。</li> <li>10 欽明紀の仏教関係記事(3)仏教伝来の記事の問題点。</li> <li>11 崇峻即位前紀(1)記事の解説。</li> <li>10 崇峻即位前紀(2)聖徳太子の登場(1)。</li> <li>13 崇峻即位前紀(3)聖徳太子の登場(2)。</li> <li>14 推古紀以前の仏教関係記事をめぐるまとめと余説。</li> <li>15 受講生による前期の講義内容の概括とコメント、質疑応答。</li> <li>16 推古紀の仏教関係記事(1)三宝興隆の詔。</li> <li>17 推古紀の仏教関係記事(2)憲法十七条(1)記事の解説。</li> <li>18 推古紀の仏教関係記事(3)憲法十七条(2)憲法と仏教などの宗教・思想。</li> <li>19 推古紀の仏教関係記事(4)片岡山飢人説話。</li> <li>20 推古紀の仏教関係記事(5)聖徳太子の死を伝える記事。</li> <li>21 舒明即位前紀(1)記事の解説。</li> <li>22 舒明即位前紀(2)山背大兄とその父、聖徳太子(1)。</li> <li>23 舒明即位前紀(3)山背大兄とその父、聖徳太子(2)。</li> <li>24 皇極紀の仏教関係記事(1)上宮王家滅亡事件の記事(1)記事の解説。</li> <li>25 皇極紀の仏教関係記事(2)上宮王家滅亡事件の記事(1)山背大兄のこぼと古訳経典(1)。</li> <li>26 皇極紀の仏教関係記事(3)上宮王家滅亡事件の記事(1)山背大兄のこぼと古訳経典(2)。</li> <li>27 孝徳紀の仏教関係記事(1)仏教興隆の詔(1)仏教興隆の論理(1)。</li> <li>28 孝徳紀の仏教関係記事(2)仏教興隆の詔(2)仏教興隆の論理(2)。</li> <li>29 今年度の講義のまとめと余説。</li> <li>30 受講生による1年間の講義内容の概括とコメント、質疑応答。</li> </ol>				



文学研究科 日本語日本文学専攻 博士前期課程		研究分野／領域	専門関連科目		
授業コード	M1310	授 業 科 目	日本民俗学特論		
担 当 者	小嶋 博巳	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	日本の民俗宗教の基本構造と歴史について研究する。とくに、民俗宗教を形成する一つの契機である定住と遍歴の交渉に注目し、遍歴宗教者と、定住民の一時的遍歴としての巡礼をとりあげる。また、民俗社会における信仰・知識のあり方について考察する。				
到 達 目 標	日本民俗学をはじめとする民俗宗教研究の立脚点を理解し、あわせて日本の伝統的社会のしくみとその宗教・知識のあり方に対する理解を深める。				
成 績 評 価 基 準	期末にレポート提出を求め、それによって評価する（授業中の発表の評価を加味する）。				
留 意 事 項	一部、演習形式もとり入れる。				
教 材	必要な資料は配付する。また参考文献は授業中に指示する。				
授 業 予 定	1. 民俗および民俗宗教という概念 2. 遍歴者と定住社会 3. 遍歴宗教者の組織と活動 4. 巡礼という宗教 5. 伝承・俗信——民俗社会の知識				

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士前期課程		研究分野／領域	専門関連科目		
授業コード	M1320	授 業 科 目	中国思想史特論		
担 当 者	鈴木 真	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	近世中国における科举・宗族・思想の問題を中心に、当時の漢人社会のあり方について、歴史学の観点より考察する。				
到 達 目 標	近世中国の漢人社会における科举制度の理念・実態について、理解を深める。				
成 績 評 価 基 準	授業に取り組む姿勢・口頭発表・課題レポートの内容等により、総合的に評価する。				
留 意 事 項	一部、演習形式もとり入れる。				
教 材	講義中に指示する。				
授 業 予 定	第 1 回：講義概要 第 2 回：中国史における官僚制度と社会 第 3 回：封建制と郡県制 第 4 回：官僚登用制度の変遷①（漢） 第 5 回：官僚登用制度の変遷②（魏晉） 第 6 回：官僚登用制度の変遷③（南北朝） 第 7 回：科举の導入と理念 第 8 回：科举による政治的影響 第 9 回：科举による思想的影響 第 10 回：科举による社会的影響 第 11 回：科举の隆盛と宗族の形成 第 12 回：北宋における宗族 第 13 回：南宋における宗族 第 14 回：明朝における宗族 第 15 回：清朝における宗族 第 16 回：近世中国の宗教倫理 第 17 回：科举と商人社会 第 18 回：浙江における商人と文人 第 19 回：ある塩商の系譜 第 20 回：清朝の野史 第 21 回：清朝における思想統制 第 22 回：清朝における「文字の獄」①（康熙年間） 第 23 回：清朝における「文字の獄」②（雍正年間） 第 24 回：清朝における「文字の獄」③（乾隆年間） 第 25 回：清朝における繙訳科举 第 26 回：旗人の応試とその意義 第 27 回：清朝社会における科举・官僚小説 第 28 回：『儒林外史』 第 29 回：『官場現形記』 第 30 回：まとめ 定期試験				

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士前期課程		研究分野／領域	専門関連科目		
授業コード	M1330	授 業 科 目	国語科教育特論		
担 当 者	伊木 洋	授 業 形 態	講義・演習		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	国語科教育の歴史的過程を基礎として国語科教育総論について理解を深めるとともに、国語教室創造のための実践理論を探究する。学習指導要領をふまえ、実践理論を生かして単元を構想し、議論・検討することを通して高度な専門的資質と実践的指導力を身に付ける。				
到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 国語科教育の実践理論を考察し、国語科教育の方向について発表することができる。</li> <li>2 学習指導要領を踏まえ、国語科教育の実践理論を生かして単元を構想することができる。</li> <li>3 国語科教育の実践理論及び単元について議論・検討し、成果を論述することができる。</li> </ol>				
成 績 評 価 基 準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に学習に取り組む態度・学習記録 30% (到達目標1、2、3)</li> <li>・発表 30% (到達目標1、2)</li> <li>・提出課題・レポート 40% (到達目標2、3)</li> </ul>				
留 意 事 項	主体的に学習に取り組む姿勢を継続し、学習のすべてを学習記録に整理して提出すること。				
教 材	西尾 実『西尾美国語教育全集 第4巻』教育出版 大村はま『大村はま国語教室 全15巻 別巻1』筑摩書房 文部科学省『中学校学習指導要領』・『中学校学習指導要領解説国語編』東洋館出版社 文部科学省『高等学校学習指導要領』・『高等学校学習指導要領解説国語編』教育出版 その他、授業中に適宜指示する。				
授 業 予 定	第1回 国語科教育の課題 第2回 国語教育の歴史的過程 (1) 語学教育期 第3回 国語教育の歴史的過程 (2) 文学教育期 第4回 国語教育の歴史的過程 (3) 言語教育期 第5回 言語生活の実態と機能、領域と形態 第6回 言語生活の方法と指導 第7回 談話生活の指導 第8回 読書生活の指導 第9回 作文学習の指導 第10回 文芸活動の指導 第11回 国語科教育の目標 第12回 国語科教育の問題と方法 第13回 国語科教育における学習材 第14回 国語学力と学習評価 第15回 国語教室の実際 (1) 話すこと・聞くことの指導 第16回 国語教室の実際 (2) 書くことの指導 第17回 国語教室の実際 (3) 読むことの指導 第18回 国語教室の実際 (4) 古典に親しませる指導 第19回 国語教室の実際 (5) 読書生活指導 第20回 国語教室の実際 (6) ことばの指導 第21回 国語教室の実際 (7) 国語学習記録の指導 第22回 「知識及び技能」の単元構想 第23回 「知識及び技能」の単元に関する議論・検討 第24回 「思考力・判断力・表現力等 話すこと・聞くこと」の単元構想 第25回 「思考力・判断力・表現力等 話すこと・聞くこと」の単元に関する議論・検討 第26回 「思考力・判断力・表現力等 書くこと」の単元構想 第27回 「思考力・判断力・表現力等 書くこと」の単元に関する議論・検討 第28回 「思考力・判断力・表現力等 読むこと」の単元構想 第29回 「思考力・判断力・表現力等 読むこと」の単元に関する議論・検討 第30回 国語科教育の方向				

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	日本文学 I		
授業コード	H1010	授業科目	古代中世文学特殊講義 I		
担当者	東城 敏毅	授業形態	講義		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II III
授業概要	『万葉集』『古事記』等、上代文学の作品を対象に、現在学界において、どのような問題が考察・検討されているのかを概観し、関連する文献を読みこなしながら、上代文学の諸問題について考察する。また、上代文学の学術論文を読み進めることにより、学術論文の展開方法を身に付けると同時に、上代文学の研究手法・問題点等についても議論する。				
到達目標	上代文学の諸問題について概観し、上代文学の研究手法と展開について理解する。				
成績評価基準	授業内活動とレポートにより総合的に評価する。				
留意事項	講義で取り上げる参考文献等、多くの学術論文を読みこなすこと。				
教材	授業中に適宜指示する。				
授業予定	上代文学の諸問題について概観し、問題となる作品や資料について、関連する文献（学術論文等）を読みながら討議する。文献を読みこなすことにより、上代文学における研究史を概観し、また、現在どのような問題が学界において議論されているのかを理解する。それと同時に、学術論文の展開方法・立証方法を身に付けるとともに、個々の学術論文の問題点・矛盾点をも考察する。				

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	日本文学 I		
授業コード	H1020	授業科目	古代中世文学特殊講義 III		
担当者	阿部 泰郎	授業形態	講義		
期間	集中	単位数	2	対象年次	I II III
授業概要	仏教を受容した日本では、その象徴である仏像の聖性をめぐって、人間の苦悩や受難を、造られたモノとしての仏像が身代りとなって傷付くという霊験譚が、古代から中世にかけて広く流布していた。また仏像そのものが生ける如来や菩薩として造られ祀られる「生身」信仰が、普遍的な<聖なるもの>として出現する。その一方、仏法を滅し障碍しようとする“反仏法”の存在が、たとえば「天狗」という説話上の存在として中世に登場する。それはまた、「第六天魔王」の伝承のような、中世につくりだされたあらたな神話として展開する。そうした、中世日本の<聖なるもの>と反<聖なるもの>＝<魔>の両義的な世界像とその系譜を、中世説話や文学作品、芸能など領域を越えて探究する。				
到達目標	中世日本に生きた人々の宗教的心性とは如何なるもので、どのように形成されたのか、文学における精神史的課題を理解することを通じて、中世人の世界像を認識すること。				
成績評価基準	上記の問題に関する理解や認識が、受講者自身の主体的な研究対象において如何に意識され反映しているか、研究レポートや討議を通して評価する。				
留意事項	多数の参考文献（原典資料・研究書・論文等）を授業において提示するので、これらを読んだ上で自らの研究を検討すること。				
教材	資料プリントを随時配布する。				
授業予定	中世文学（文学史）の諸問題について概観した上で、問題の焦点となる作品や資料について、関連する文献を読みながらレクチャーし、討議する。今年は資料に収められた中世説話と寺社縁起を中心に、中世文学作品や芸能を参照しながら中世の光と闇について考えたい。				

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	日本文学Ⅱ		
授業コード	H1100	授業科目	近世近代文学特殊講義Ⅰ		
担当者	山根 道公	授業形態	講義		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II III
授業概要	日本近代文学にはキリスト教的、聖書的影響のある作品が多くあるが、そうした中から小説および詩を取り上げ、キリスト教的思想や聖書的象徴表現などに注目して分析、読解を行う作品研究を試みる。さらにそうした作品研究を踏まえて、作家研究にも取り組む。				
到達目標	キリスト教的、聖書の主題をもつ日本近代文学の作品を分析する方法を修得する。				
成績評価基準	授業内活動と研究レポートにより評価する。				
留意事項	講義で取り上げる作品および指示する参考文献を予め読んでおくこと。				
教材	授業中に指示する。				
授業予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本近代文学におけるキリスト教の影響のある作品・作家の概説。(1～10回)</li> <li>・具体的な作品を選んで、分析、読解を行う。(11～20回)</li> <li>・作品研究を踏まえて、作家研究を行う。(21～30回)</li> </ul>				

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	日本文学Ⅱ		
授業コード	H1110	授業科目	近世近代文学特殊講義Ⅱ		
担当者	山根 知子	授業形態	講義		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II III
授業概要	日本近代文学の作品を対象に、一次資料から二次資料にいたる綿密な調査および系統的な整理を行い、そうした基礎資料の把握を踏まえた本文批評を経て、目的および方法論を明確にした作品論・作家論に取り組む。				
到達目標	作家に関するデータ処理の方法を身につけ、収集した資料を客観的に扱うことで、実証性の高い論考を実践できること。				
成績評価基準	授業内活動と論文により総合的に評価する。				
留意事項	各自の研究対象となる作家について、作家、作品、および先行研究における必要な全データを系統的に収集・整理し、表などにまとめて提示できるようにしておくこと。				
教材	授業中に指示する。				
授業予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品・作家に関する資料、および先行研究における整理方法の紹介</li> <li>・具体的な実例を講義</li> <li>・各自の研究課題に対する方法論や問題点の検討</li> </ul>				

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	日本文学Ⅱ		
授業コード	H1130	授業科目	近世近代文学特殊講義Ⅳ		
担当者	綾目 広治	授業形態	講義		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II III
授業概要	日本近代の小説及び批評の研究を行う。受講生の論文作成に資する文献を読んでいく。				
到達目標	取り上げた文献についての幅広い視野からの理解を得る。				
成績評価基準	作成した雑誌論文等の達成度によって判断する。				
留意事項	数多くの文献を読みこなすこと。				
教材	適宜指示する。				
授業予定	1. 文学研究方法論 2. 戦前昭和の批評 3. 戦後批評 4. 現代批評 5. 批評理論				

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	日本文学Ⅱ		
授業コード	H1171・H1180・H1190	授業科目	近世近代文学課題研究		
担当者	綾目広治・山根知子・山根道公	授業形態	演習		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I～III
授業概要	学生個人の主体的な問題意識や学生の希望する研究課題に、指導教員が協力し、集中的、焦点的に取り組む研究の場である。課題に対して、指導の徹底と研究の深化を図ることによって、博士論文作成の助言と指導を行う。				
到達目標	博士論文作成				
成績評価基準	作成した論文等の達成度によって判断する。				
留意事項	数多くの文献を読みこなすこと。				
教材	適宜指示する。				
授業予定	博士論文作成のための文献調査等。				

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	日本語学		
授業コード	H1200	授 業 科 目	日本語学特殊講義 I		
担 当 者	尾崎 喜光	授 業 形 態	講義（演習を含む）		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	日本語において敬語と同様に対人的配慮を示す補助動詞としての授受表現（「～てあげる」「～てもらう」「～てくださる」等の表現）、中でも最近増加傾向にある依頼場面での「～てもらっていい？」（およびそのバリエーション）に注目し、こうした表現が文学作品においていつ頃から使われ始めているか等について研究する。				
到 達 目 標	文学作品の会話部分に現れる特定の表現を言語学的にどのように分析するかについて担当教員と議論・検討し、それをふまえて調査・分析を行なう力を養う。				
成 績 評 価 基 準	授業内活動、研究レポートにより評価する。				
留 意 事 項	PCでの分析、データベースの作成を必須とする。ワード、エクセルを使える環境を整えておくこと。				
教 材	特になし				
授 業 予 定	<p>【第1期】</p> 第1回：ガイダンス 第2回：先行研究の精読と解説 第3回：分析対象とする小説についての検討（1） 第4回：分析対象とする小説についての検討（2） 第5回：データの蓄積方法についての検討 第6回：予備的分析の報告と検討（1） 第7回：予備的分析の報告と検討（2） 第8回：分析対象とする小説についての再検討（1） 第9回：分析対象とする小説についての再検討（2） 第10回：中間分析の報告と検討（1） 第11回：中間分析の報告と検討（2） 第12回：中間分析の報告と検討（3） 第13回：分析の観点に関する再検討 第14回：分析の観点に関する再検討を受けての予備的分析の報告（1） 第15回：分析の観点に関する再検討を受けての予備的分析の報告（2） <p>【第2期】</p> 第16回：夏季休暇の間の進捗状況についての確認 第17回：分析対象とする小説についての再検討 第18回：中間分析の報告と検討（1） 第19回：中間分析の報告と検討（2） 第20回：中間分析の報告と検討（3） 第21回：分析報告と検討（1） 第22回：分析報告と検討（2） 第23回：分析報告と検討（3） 第24回：分析報告と検討（4） 第25回：分析報告と検討（5） 第26回：分析報告と検討（6） 第27回：分析報告と検討（7） 第28回：分析報告と検討（8） 第29回：分析報告と検討（9） 第30回：総括				

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	日本語学		
授業コード	H1220	授 業 科 目	日本語学特殊講義Ⅲ		
担 当 者	瀬間正之・三宅ちぐさ	授 業 形 態	講義		
期 間	集中(瀬間)・2期(三宅)	単 位 数	4	対 象 年 次	I II III
(瀬間 正之)					
授 業 概 要	金石文・木簡などの古代朝鮮半島資料、六朝から初唐の漢籍・漢訳仏典などの大陸資料との比較を中心に、記紀万葉風土記がそれぞれに達成した文字表現の方法を、東アジア漢字文化圏の中で捉えることを試みる。				
到 達 目 標	東アジア漢字文化圏の中で我が国の古典学を捉える。				
成 績 評 価 基 準	出席状況、及び授業中の応答。				
留 意 事 項	受講予定者は事前に修士論文のテーマ、現在の専攻領域、この授業に何を望むかについて報告すること。				
教 材	プリント配布				
授 業 予 定	受講者の関心を踏まえて上代文献・上代語資料を扱うので、留意事項記述事項を7月下旬までに提出すること。				
(三宅ちぐさ)					
授 業 概 要	語彙の重要性・他の研究分野（文法・文体など）との関わり・研究法・研究成果等を学ぶと同時に、その知識・理解をより深め確かなものとするため、身近な語彙を材料に内省や調査を実践する。また、史的観点から意味分野別に変化の特徴を確認する。				
到 達 目 標	1、日本語の語彙的特徴を修得すること 2、語彙とその他の研究分野との関わりの深さを認識すること 3、「ことば」の問題に、より敏感になること				
成 績 評 価 基 準	1、受講態度（積極性・問題意識 など） 2、レポート（問題意識・論理性・精確さ など）				
留 意 事 項	必要に応じ、随時相談・説明する。				
教 材	必要に応じ、随時紹介・配布する。				
授 業 予 定	1、語彙とは 2、語彙研究の視点数種 3、語彙の分類・体系 4、日本語の特徴 5、調査方法 など 受講者の専門分野をも考慮して行う。				



文学研究科 日本語日本文学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	日本語学		
授業コード	H1230	授 業 科 目	日本語学課題研究		
担 当 者	尾崎 喜光	授 業 形 態	演習		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I ~ III
授 業 概 要	各自の問題意識やテーマに、集中的、焦点的に取り組む。この間、博士論文作成に向けての討議を深める。				
到 達 目 標	博士論文作成に必要な主要な先行研究の扱い方、資料の収集・分析方法の検討を通して各自のテーマへの問題意識を深化させる。				
成 績 評 価 基 準	授業内活動、レポートにより評価する。				
留 意 事 項	発表用レポートの作成を要する。				
教 材	博士論文作成に際して考察材料とする研究論文・著作。				
授 業 予 定	各自のテーマを究めることを目標に行う。博士論文作成に必要な主要な先行論文を検討。論文の一部となるレポートを作成し、発表、討議。				

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	関連		
授業コード	H1300	授 業 科 目	日本思想史特殊講義		
担 当 者	八重樫 直比古	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II III
授 業 概 要	六国史の2番目の『続日本紀』には奈良時代を中心に、歴代の天皇の発した60余りの宣命が収められている。これらの中には、発布主体の生々しい肉声が聞こえて来るものも含まれている。宣命を通して、8世紀奈良時代の天皇やその周辺における仏教をめぐる思想の一端を明らかにするとともに、通説の是非を考える。				
到 達 目 標	現在の漢字仮名交り文の祖型を知り、音声言語による意志伝達の世界を知る。併せて、8世紀の仏教の実態の一端を知り、通説の是非を考える。				
成 績 評 価 基 準	前期・後期最終回のコメント・質疑応答(50%)、および前期・後期各1回提出のレポート(50%)。				
留 意 事 項	注釈や現代語訳などに広く深く目を通し、その上でテキストを自力で読み込むことに努める。				
教 材	担当者が毎回、使用するプリントを用意する。				
授 業 予 定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開講に当たっての1年間の予定、宣命研究の魅力と留意点。</li> <li>2 『続日本紀』概説。</li> <li>3 宣命概説および宣命の研究史概説。</li> <li>4 フォーマルな宣命とアンフォーマルな宣命。</li> <li>5 聖武天皇の宣命(1)即位の宣命。</li> <li>6 聖武天皇の宣命(2)安宿媛(光明皇后)の立后を告げる宣命。</li> <li>7 聖武天皇の宣命(3)陸奥国産金を大仏に報告する宣命。</li> <li>8 聖武天皇の宣命(4)陸奥国産金を寿ぎ改元を告げる宣命(1)内容概説。</li> <li>9 聖武天皇の宣命(4)陸奥国産金を寿ぎ改元を告げる宣命(2)その問題点(1)。</li> <li>10 聖武天皇の宣命(4)陸奥国産金を寿ぎ改元を告げる宣命(2)その問題点(2)。</li> <li>11 聖武天皇の宣命(5)陸奥国産金を寿ぎ改元を告げる宣命と大伴家持歌(1)内容概説。</li> <li>12 聖武天皇の宣命(6)陸奥国産金を寿ぎ改元を告げる宣命と大伴家持歌(1)その問題点。</li> <li>13 聖武讓位、孝謙即位の宣命(1)内容概説。</li> <li>14 聖武讓位、孝謙即位の宣命(2)その問題点。</li> <li>15 受講生による前期の講義内容の概括とコメント、質疑応答。</li> <li>16 古代最後の女帝(孝謙・称徳)阿倍内親王の生涯。</li> <li>17 孝謙天皇の橘奈良麻呂の変をめぐる宣命。</li> <li>18 孝謙天皇讓位の宣命。</li> <li>19 孝謙太上天皇の政柄の分担を告げる宣命。</li> <li>20 称徳天皇の道鏡を大臣禪師とする宣命と淳仁天皇廃位の宣命。</li> <li>21 称徳天皇の道鏡を法王とする宣命。</li> <li>22 称徳天皇の県犬養姉売らを配流に処する宣命。</li> <li>23 称徳天皇の和気清麻呂姉弟を退ける宣命。</li> <li>24 称徳天皇の群臣を喩す宣命(1)内容概説。</li> <li>25 称徳天皇の群臣を喩す宣命(2)『金光明最勝王経』の引用。</li> <li>26 称徳天皇の群臣を喩す宣命(3)発布の背景(1)。</li> <li>27 称徳天皇の群臣を喩す宣命(3)発布の背景(2)。</li> <li>28 再び、阿倍内親王の生涯。阿倍内親王にとって仏教(道鏡)とは何であったのか。</li> <li>29 1年間の講義のまとめと余説。</li> <li>30 受講生による1年間の講義内容の概括とコメント、質疑応答。</li> </ol>				

文学研究科 日本語日本文学専攻 博士後期課程		研究分野／領域	関連		
授業コード	H1310	授 業 科 目	日本民俗学特殊講義		
担 当 者	小嶋 博巳	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II III
授 業 概 要	日本の民俗宗教の基本構造と歴史について研究する。とくに、民俗社会における信仰・知識のあり方、仏教をはじめとする成立宗教と民俗宗教の関係に焦点を当てて考察する。				
到 達 目 標	日本民俗学をはじめとする民俗研究および民俗宗教研究の立脚点・方法論・成果を理解し、文学研究に援用できるようになることをめざす。				
成 績 評 価 基 準	期末にレポート提出を求め、それによって評価する（授業中の発表の評価を加味する）。				
留 意 事 項	一部、演習形式もとり入れる。				
教 材	必要な資料は配付する。また参考文献は授業中に指示する。				
授 業 予 定	1. 宗教・信仰・知識 2. 俗信・迷信 3. 民俗宗教・民間信仰 4. 仏教と民俗宗教 5. 神社神道と民俗宗教				

文学研究科 英語英米文学専攻 修士課程		研究分野／領域	イギリス文学																																						
授業コード	M2000	授業科目	イギリス文学特論 I																																						
担当者	赤松 佳子	授業形態	講義																																						
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II																																				
授業概要	17世紀イギリスの詩人と呼ばれるジョン・ダンの作品を中心に、英詩を研究する。同時代詩人や後世の詩人の作品との比較を通して、作品を精読・分析し、詩がどのように読まれ、批評されてきたかを考えていく。																																								
到達目標	英語で書かれた韻文の読解力を培い、批評眼を養うことを目標とする。																																								
成績評価基準	学期末レポート(60%)、担当発表・意見交換(20%)、小レポート(20%)																																								
留意事項	文学批評の知識を深め、研究対象への応用力を磨くこと。																																								
教材	John Donne, <i>The Complete English Poems</i> 他 (資料配付)																																								
授業予定	<p>愛をテーマにした詩を取り上げ、巧みな比喩表現に注目しながら形而上詩の系譜を辿る。第1期はダンの恋愛詩、第2期は彼の書簡詩と宗教詩を精読・鑑賞し、英詩への理解を深める。</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th>第1期</th> <th>第2期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回</td> <td>回</td> </tr> <tr> <td>1 導入1 詩人の生涯と主要作品の紹介</td> <td>17 書簡詩の作品講読1</td> </tr> <tr> <td>2 導入2 時代背景・同時代文人たち</td> <td>18 書簡詩の作品講読2</td> </tr> <tr> <td>3 <i>Elegies</i> の作品講読1</td> <td>19 書簡詩の作品講読3</td> </tr> <tr> <td>4 <i>Elegies</i> の作品講読2</td> <td>20 書簡詩の作品講読4</td> </tr> <tr> <td>5 <i>Elegies</i> の作品講読3</td> <td>21 書簡詩の作品講読5</td> </tr> <tr> <td>6 <i>Elegies</i> の作品講読4</td> <td>22 評論を読む</td> </tr> <tr> <td>7 評論を読む</td> <td>23 宗教詩の作品講読1</td> </tr> <tr> <td>8 <i>Songs and Sonnets</i> の作品講読1</td> <td>24 宗教詩の作品講読2</td> </tr> <tr> <td>9 <i>Songs and Sonnets</i> の作品講読2</td> <td>25 宗教詩の作品講読3</td> </tr> <tr> <td>10 <i>Songs and Sonnets</i> の作品講読3</td> <td>26 宗教詩の作品講読4</td> </tr> <tr> <td>11 <i>Songs and Sonnets</i> の作品講読4</td> <td>27 宗教詩の作品講読5</td> </tr> <tr> <td>12 <i>Songs and Sonnets</i> の作品講読5</td> <td>28 宗教詩の作品講読6</td> </tr> <tr> <td>13 <i>Songs and Sonnets</i> の作品講読6</td> <td>29 宗教詩の作品講読7</td> </tr> <tr> <td>14 評論を読む</td> <td>30 評論を読む</td> </tr> <tr> <td>15 まとめ</td> <td>31 作品の全体像と総合評価</td> </tr> <tr> <td>16 小レポート</td> <td>32 レポート</td> </tr> </tbody> </table>					第1期	第2期	回	回	1 導入1 詩人の生涯と主要作品の紹介	17 書簡詩の作品講読1	2 導入2 時代背景・同時代文人たち	18 書簡詩の作品講読2	3 <i>Elegies</i> の作品講読1	19 書簡詩の作品講読3	4 <i>Elegies</i> の作品講読2	20 書簡詩の作品講読4	5 <i>Elegies</i> の作品講読3	21 書簡詩の作品講読5	6 <i>Elegies</i> の作品講読4	22 評論を読む	7 評論を読む	23 宗教詩の作品講読1	8 <i>Songs and Sonnets</i> の作品講読1	24 宗教詩の作品講読2	9 <i>Songs and Sonnets</i> の作品講読2	25 宗教詩の作品講読3	10 <i>Songs and Sonnets</i> の作品講読3	26 宗教詩の作品講読4	11 <i>Songs and Sonnets</i> の作品講読4	27 宗教詩の作品講読5	12 <i>Songs and Sonnets</i> の作品講読5	28 宗教詩の作品講読6	13 <i>Songs and Sonnets</i> の作品講読6	29 宗教詩の作品講読7	14 評論を読む	30 評論を読む	15 まとめ	31 作品の全体像と総合評価	16 小レポート	32 レポート
第1期	第2期																																								
回	回																																								
1 導入1 詩人の生涯と主要作品の紹介	17 書簡詩の作品講読1																																								
2 導入2 時代背景・同時代文人たち	18 書簡詩の作品講読2																																								
3 <i>Elegies</i> の作品講読1	19 書簡詩の作品講読3																																								
4 <i>Elegies</i> の作品講読2	20 書簡詩の作品講読4																																								
5 <i>Elegies</i> の作品講読3	21 書簡詩の作品講読5																																								
6 <i>Elegies</i> の作品講読4	22 評論を読む																																								
7 評論を読む	23 宗教詩の作品講読1																																								
8 <i>Songs and Sonnets</i> の作品講読1	24 宗教詩の作品講読2																																								
9 <i>Songs and Sonnets</i> の作品講読2	25 宗教詩の作品講読3																																								
10 <i>Songs and Sonnets</i> の作品講読3	26 宗教詩の作品講読4																																								
11 <i>Songs and Sonnets</i> の作品講読4	27 宗教詩の作品講読5																																								
12 <i>Songs and Sonnets</i> の作品講読5	28 宗教詩の作品講読6																																								
13 <i>Songs and Sonnets</i> の作品講読6	29 宗教詩の作品講読7																																								
14 評論を読む	30 評論を読む																																								
15 まとめ	31 作品の全体像と総合評価																																								
16 小レポート	32 レポート																																								

文学研究科 英語英米文学専攻 修士課程		研究分野／領域	英語学言語学		
授業コード	M 2 0 2 0	授 業 科 目	イギリス文学特論 II		
担 当 者	David Ramsey	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	This graduate course will investigate the rise of English literature from Old English beginnings through the Middle English period.				
到 達 目 標	The purpose of this course is to more deeply familiarize students with the changing linguistic, literary, and cultural traditions that gave rise to the English language and English literature. We will investigate texts in Old and Middle English, accompanied by translations in modern English. Particular attention will be paid to <i>Beowulf</i> and Chaucer's <i>Canterbury Tales</i> .				
成 績 評 価 基 準	Active class participation (40%); presentations (30%); essays (30%).				
留 意 事 項					
教 材	Most materials will be provided; students will need to buy one paperback, as directed.				
授 業 予 定	1 Conquest, migrations, and language: before England was "England" 2 Anglo-Saxon and Old English traditions and prosody 3 Caedmon and <i>The Dream of the Rood</i> 4 <i>The Dream of the Rood</i> and Old English prosody 5 <i>The Dream of the Rood</i> and literary heritage, traditions 6 <i>Beowulf</i> introduction 7 <i>Beowulf</i> and literary heritage, traditions 8 <i>Beowulf</i> and Nordic warrior cult 9 <i>Beowulf</i> and matriarchal fertility cult 10 <i>Beowulf</i> and revisionism 11 <i>Beowulf</i> and revisionism 12 The Norman Conquest and Middle English 13 "The Father of English Literature" : Introduction to Chaucer 14 <i>The Canterbury Tales</i> introduction 15 "The General Prologue" and Middle English prosody				
	1 "The General Prologue" and its archetypes 2 "The Knight's Tale" introduction 3 "The Knight's Tale" and courtly romance 4 "The Knight's Tale" and critical heritage 5 "The Miller's Tale" introduction 6 "The Miller's Tale" and <i>fabliaux</i> 7 "The Miller's Tale" and critical heritage 8 "The Wife of Bath's Prologue" introduction 9 "The Wife of Bath's Prologue" and confessional 10 "The Wife of Bath's Prologue" and critical heritage 11 "The Wife of Bath's Prologue" and feminism 12 "The Wife of Bath's Tale" introduction 13 "The Wife of Bath's Tale" 14 "The Wife of Bath's Tale" and critical heritage 15 "The Wife of Bath's Tale" and feminism				

文学研究科 英語英米文学専攻 修士課程		研究分野／領域	イギリス文学																																		
授業コード	M2030	授 業 科 目	イギリス文学特論Ⅲ																																		
担 当 者	藤木 和子	授 業 形 態	講義																																		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II																																
授 業 概 要	アイルランドの劇作家、ブライアン・フリールの演劇作品を読む。ローカル色豊かに描かれる人間模様の中には人間社会の抱える普遍的な問題、葛藤が見られる。その演劇手法を考察しながら、作家と作品の位置づけを試みる。																																				
到 達 目 標	作品の精読、分析を通して現代演劇の特徴と技法の一面を理解する。																																				
成 績 評 価 基 準	受講態度、分析・解釈力、レポート等を総合的に評価する。																																				
留 意 事 項	アイルランドの歴史的、社会的背景（特にイギリスとの関わりの中で）の理解に努めてほしい。																																				
教 材	Brian Friel, <i>Dancing at Lughnasa</i> 他。																																				
授 業 予 定	<table border="0"> <tr> <td>第1回：導入 作家</td> <td>第16回：導入 作品とその背景、及び技法</td> </tr> <tr> <td>第2回：導入 作品とその背景、及び技法</td> <td>第17回：作品精読 第一幕</td> </tr> <tr> <td>第3回：作品精読 第一幕</td> <td>第18回：作品精読 第一幕</td> </tr> <tr> <td>第4回：作品精読 第一幕</td> <td>第19回：作品精読 第一幕</td> </tr> <tr> <td>第5回：作品精読 第一幕</td> <td>第20回：作品精読 第二幕</td> </tr> <tr> <td>第6回：作品精読 第一幕</td> <td>第21回：作品精読 第二幕</td> </tr> <tr> <td>第7回：作品精読 第一幕</td> <td>第22回：作品精読 第二幕</td> </tr> <tr> <td>第8回：作品精読 第二幕</td> <td>第23回：作品精読 第三幕</td> </tr> <tr> <td>第9回：作品精読 第二幕</td> <td>第24回：作品精読 第三幕</td> </tr> <tr> <td>第10回：作品精読 第二幕</td> <td>第25回：作品精読 第四幕</td> </tr> <tr> <td>第11回：作品精読 第二幕</td> <td>第26回：作品精読 第四幕</td> </tr> <tr> <td>第12回：評論文献講読 歴史</td> <td>第27回：評論文献講読 手法</td> </tr> <tr> <td>第13回：評論文献講読 手法</td> <td>第28回：評論文献講読 テーマ</td> </tr> <tr> <td>第14回：評論文献講読 テーマ</td> <td>第29回：評論文献講読 他の作品との比較</td> </tr> <tr> <td>第15回：まとめ</td> <td>第30回：評論文献講読 フリール</td> </tr> <tr> <td></td> <td>定期試験 (レポート)</td> </tr> </table>					第1回：導入 作家	第16回：導入 作品とその背景、及び技法	第2回：導入 作品とその背景、及び技法	第17回：作品精読 第一幕	第3回：作品精読 第一幕	第18回：作品精読 第一幕	第4回：作品精読 第一幕	第19回：作品精読 第一幕	第5回：作品精読 第一幕	第20回：作品精読 第二幕	第6回：作品精読 第一幕	第21回：作品精読 第二幕	第7回：作品精読 第一幕	第22回：作品精読 第二幕	第8回：作品精読 第二幕	第23回：作品精読 第三幕	第9回：作品精読 第二幕	第24回：作品精読 第三幕	第10回：作品精読 第二幕	第25回：作品精読 第四幕	第11回：作品精読 第二幕	第26回：作品精読 第四幕	第12回：評論文献講読 歴史	第27回：評論文献講読 手法	第13回：評論文献講読 手法	第28回：評論文献講読 テーマ	第14回：評論文献講読 テーマ	第29回：評論文献講読 他の作品との比較	第15回：まとめ	第30回：評論文献講読 フリール		定期試験 (レポート)
第1回：導入 作家	第16回：導入 作品とその背景、及び技法																																				
第2回：導入 作品とその背景、及び技法	第17回：作品精読 第一幕																																				
第3回：作品精読 第一幕	第18回：作品精読 第一幕																																				
第4回：作品精読 第一幕	第19回：作品精読 第一幕																																				
第5回：作品精読 第一幕	第20回：作品精読 第二幕																																				
第6回：作品精読 第一幕	第21回：作品精読 第二幕																																				
第7回：作品精読 第一幕	第22回：作品精読 第二幕																																				
第8回：作品精読 第二幕	第23回：作品精読 第三幕																																				
第9回：作品精読 第二幕	第24回：作品精読 第三幕																																				
第10回：作品精読 第二幕	第25回：作品精読 第四幕																																				
第11回：作品精読 第二幕	第26回：作品精読 第四幕																																				
第12回：評論文献講読 歴史	第27回：評論文献講読 手法																																				
第13回：評論文献講読 手法	第28回：評論文献講読 テーマ																																				
第14回：評論文献講読 テーマ	第29回：評論文献講読 他の作品との比較																																				
第15回：まとめ	第30回：評論文献講読 フリール																																				
	定期試験 (レポート)																																				

文学研究科 英語英米文学専攻 修士課程		研究分野／領域	イギリス文学		
授業コード	M2061	授業科目	イギリス文学演習		
担当者	David Ramsey	授業形態	演習		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I～II
授業概要	This advanced graduate seminar will investigate drama of the English Renaissance at its height, during the Elizabethan Age.				
到達目標	We will focus our attention on three writers: Christopher Marlowe, Thomas Kyd, and William Shakespeare. We will also study the cultural and literary precedents of these playwrights' works, as well as situate these writers within their historical, political, and cultural milieu.				
成績評価基準	Active class participation (40%); presentations (30%); essays (30%).				
留意事項					
教材	Many materials will be provided, but students will need to borrow or buy their own copies of the plays indicated below:				
授業予定	<p>Schedule First Semester:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to the Elizabethan Age</li> <li>2. Ancient literary precedents (Greek and Roman drama)</li> <li>3. Introduction to Christopher Marlowe</li> <li>4. <i>Doctor Faustus</i></li> <li>5. <i>Doctor Faustus</i></li> <li>6. <i>Doctor Faustus</i></li> <li>7. <i>Tamburlaine, Part I</i></li> <li>8. <i>Tamburlaine, Part I</i></li> <li>9. <i>Tamburlaine, Part II</i></li> <li>10. <i>Tamburlaine, Part II</i></li> <li>11. Introduction to Thoms Kyd</li> <li>11. <i>The Spanish Tragedy</i></li> <li>12. <i>The Spanish Tragedy</i></li> <li>13. Review of Marlowe and Kyd</li> <li>14. Introduction to William Shakespeare</li> <li>15. <i>Hamlet</i></li> </ol> <p>Schedule Second Semester</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. <i>Hamlet</i></li> <li>2. <i>Hamlet</i></li> <li>3. <i>Romeo and Juliet</i></li> <li>4. <i>Romeo and Juliet</i></li> <li>5. <i>Romeo and Juliet</i></li> <li>6. Shakespeare and British history</li> <li>7. <i>Henry Fourth, Part I</i></li> <li>8. <i>Henry Fourth, Part I</i></li> <li>9. <i>Henry Fourth, Part I</i></li> <li>10. Shakespeare and Roman history</li> <li>11. <i>Coriolanus</i></li> <li>12. <i>Coriolanus</i></li> <li>13. <i>Antony and Cleopatra</i></li> <li>14. <i>Antony and Cleopatra</i></li> <li>15. <i>Antony and Cleopatra</i></li> </ol>				

文学研究科 英語英米文学専攻 修士課程		研究分野／領域	アメリカ文学		
授業コード	M2100	授 業 科 目	アメリカ文学特論 I		
担 当 者	中村 善雄	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	アメリカ生まれの国際的作家ヘンリー・ジェームズの中・短編作品の講読を通じて、19世紀後半の文化をめぐる諸問題を明らかにしていき、高踏派作家として名高いジェームズ像の脱構築と、大衆文化との親和性を追求していく。				
到 達 目 標	文学作品を、執筆された時代の文化的・社会的文脈の中で読み、文学作品それ自体が文化や社会から独立したものではなく、同時代的な価値観を共有していることを学ぶ。				
成 績 評 価 基 準	毎授業の発表内容やレポートを総合に判断して、評価をする。 レポート2回 70% 発表内容 30%				
留 意 事 項					
教 材	ヘンリー・ジェームズの中短編 ( <i>Daisy Miller</i> , “The Real Thing” 他) 必要がある時に、随時指示する。				
授 業 予 定	第 1 回：授業全体の概要とヘンリー・ジェームズ 第 2 回： <i>Daisy Miller</i> 講読（1）及び作品の説明 第 3 回： <i>Daisy Miller</i> 講読（1）及び作品の説明 第 4 回： <i>Daisy Miller</i> 講読（1）及び作品の説明 第 5 回： <i>Daisy Miller</i> 講読（1）及び作品の説明 第 6 回： <i>Daisy Miller</i> 講読（1）及び作品の説明 第 7 回： <i>Daisy Miller</i> 講読（1）及び作品の説明 第 8 回： <i>Daisy Miller</i> 講読（1）及び作品の説明 第 9 回：関連する評論の講読と問題点の確認 第 10 回：関連する評論の講読と問題点の確認 第 11 回：“The Rose-Agathe” 講読（2）及び作品の説明 第 12 回：“The Rose-Agathe” 講読（2）及び作品の説明 第 13 回：“The Rose-Agathe” 講読（2）及び作品の説明 第 14 回：関連する評論の講読と問題点の確認 第 15 回：関連する評論の講読と問題点の確認 第 16 回：“The Beast in the Jungle” 講読（3）及び作品の説明 第 17 回：“The Beast in the Jungle” 講読（3）及び作品の説明 第 18 回：“The Beast in the Jungle” 講読（3）及び作品の説明 第 19 回：“The Beast in the Jungle” 講読（3）及び作品の説明 第 20 回：“The Beast in the Jungle” 講読（3）及び作品の説明 第 21 回：関連する評論の講読と問題点の確認 第 22 回：関連する評論の講読と問題点の確認 第 23 回：“The Real Thing” 講読（4）及び作品の説明 第 24 回：“The Real Thing” 講読（4）及び作品の説明 第 25 回：“The Real Thing” 講読（4）及び作品の説明 第 26 回：“The Real Thing” 講読（4）及び作品の説明 第 27 回：“The Real Thing” 講読（4）及び作品の説明 第 28 回：関連する評論の講読と問題点の確認 第 29 回：関連する評論の講読と問題点の確認 第 30 回：授業全体のまとめ				



文学研究科 英語英米文学専攻 修士課程	研究分野／領域	アメリカ文学			
授業コード	M2110	授 業 科 目	アメリカ文学特論Ⅱ		
担 当 者	広瀬 佳司	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	ハイム・グラデー、アイザック・シンガー等の短編・長編を熟読しながら、ユダヤ文化・儀式を説く。イディッシュ語の初歩も学習することで、アメリカ文学の奥行きを感じてほしい。また、「旧約聖書」との関係も考察しながら講義を進めていくので、聖書も読んでほしい。必要に応じて、ほかのユダヤ系作家にも言及していきたいと考えている。				
到 達 目 標	文学に限らず、広い視野でアメリカ文学の多様性を理解するようにする。				
成 績 評 価 基 準	レポート提出				
留 意 事 項	ユダヤ百科事典を利用して十分下調べをすること。				
教 材	教室で指示する。				
授 業 予 定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ハイム・グラデーの文学世界をアイザック・シンガーと比較して論じる。</li> <li>2. ハイム・グラデーの文学世界をアイザック・シンガーと比較して論じる。</li> <li>3. ハイム・グラデーの代表作 <i>The Sacred and the Profane</i> 中の“The Rebetzin”の世界を論じるとともに、作品を味わう。</li> <li>4. ハイム・グラデーの代表作 <i>The Sacred and the Profane</i> 中の“The Rebetzin”の世界を論じるとともに、作品を味わう。</li> <li>5. ハイム・グラデーの代表作 <i>The Sacred and the Profane</i> 中の“The Rebetzin”の世界を論じるとともに、作品を味わう。</li> <li>6. ハイム・グラデーの代表作 <i>The Sacred and the Profane</i> 中の“The Rebetzin”の世界を論じるとともに、作品を味わう。</li> <li>7. ハイム・グラデーの代表作 <i>The Sacred and the Profane</i> 中の“The Rebetzin”の世界を論じるとともに、作品を味わう。</li> <li>8. ハイム・グラデーの代表作“Laybe-Layzar’s Courtyard”の世界を論じるとともに、作品を味わう。</li> <li>9. ハイム・グラデーの代表作“Laybe-Layzar’s Courtyard”の世界を論じるとともに、作品を味わう。</li> <li>10. ハイム・グラデーの代表作“Laybe-Layzar’s Courtyard”の世界を論じるとともに、作品を味わう。</li> <li>11. ハイム・グラデーの代表作“Laybe-Layzar’s Courtyard”の世界を論じるとともに、作品を味わう。</li> <li>12. アイザック・シンガーの短編“Giempel the Fool”を味わいながら、作品の背景を探る。</li> <li>13. アイザック・シンガーの短編“Giempel the Fool”を味わいながら、作品の背景を探る。</li> <li>14. アイザック・シンガーの短編“Giempel the Fool”を味わいながら、作品の背景を探る。</li> <li>15. 同時代のハイム・グラデーとアイザック・シンガーの作風について論じる。</li> <li>16. テスト</li> <li>17. アイザック・シンガーの短編“The Cafeteria”を味わいながら、作品の背景を探る。</li> <li>18. アイザック・シンガーの短編“The Cafeteria”を味わいながら、作品の背景を探る。</li> <li>19. アイザック・シンガーの短編“The Cafeteria”を味わいながら、作品の背景を探る。</li> <li>20. アイザック・シンガーの短編“The Cafeteria”を味わいながら、作品の背景を探る。</li> <li>21. アイザック・シンガーの短編“The Cafeteria”を味わいながら、作品の背景を探る。</li> <li>22. エリ・ヴィーゼルのNightを熟読して、ホロコーストの歴史的な意味を論じる。</li> <li>23. エリ・ヴィーゼルのNightを熟読して、ホロコーストの歴史的な意味を論じる。</li> <li>24. エリ・ヴィーゼルのNightを熟読して、ホロコーストの歴史的な意味を論じる。</li> <li>25. エリ・ヴィーゼルのNightを熟読して、ホロコーストの歴史的な意味を論じる。</li> <li>26. I.L.ペレッツの代表的な短編“If not higher”を読みながらハシド教の世界を講義する。</li> <li>27. I.L.ペレッツの代表的な短編“If not higher”を読みながらハシド教の世界を講義する。</li> <li>28. I.L.ペレッツの代表的な短編“If not higher”を読みながらハシド教の世界を講義する。</li> <li>29. I.L.ペレッツの代表的な短編“If not higher”を読みながらハシド教の世界を講義する。</li> <li>30. I.L.ペレッツの代表的な短編“If not higher”を読みながらハシド教の世界を講義する。</li> <li>31. I.L.ペレッツの代表的な短編“If not higher”を読みながらハシド教の世界を講義する。</li> <li>32. テスト</li> </ol>				

文学研究科 英語英米文学専攻 修士課程		研究分野／領域	アメリカ文学		
授業コード	M 2 1 2 0	授 業 科 目	アメリカ文学特論Ⅲ		
担 当 者	David Ramsey	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	This graduate course will provide a useful introduction to critical and literary theory. These critical tools are relevant not only to literary research, but are useful in all kinds of analysis, including investigations of social, cultural, economic, and political structures.				
到 達 目 標	The purpose of this course is to familiarize graduate students with the critical theory that they need to perform literary research and cultural studies at the graduate level. Students who are interested in studying abroad, or who are interested in deeply understanding society and culture, will benefit greatly.				
成績評価基準	Active class participation (40%); presentations (30%); essays (30%).				
留 意 事 項					
教 材	Many materials will be provided; students may need to buy one paperback, as directed.				
授 業 予 定	<p>Schedule First Semester:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to critical theory</li> <li>2. Critical theory terms and methods</li> <li>3. Classical tradition (Plato)</li> <li>4. Classical tradition (Plato)</li> <li>5. Renaissance tradition</li> <li>6. Romantic tradition</li> <li>7. Poe's philosophy and practice</li> <li>8. Poe's philosophy and practice</li> <li>9. New Criticism</li> <li>10. New Criticism</li> <li>11. Russian Formalism</li> <li>12. Dialogism</li> <li>13. Dialogism</li> <li>14. Race, class, and gender</li> <li>15. Race, class and gender</li> </ol> <p>Schedule Second Semester:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Race and writing</li> <li>2. Race and writing</li> <li>3. Class and Semiotics</li> <li>4. Class and Semiotics</li> <li>5. Ways of Seeing</li> <li>6. Ways of Seeing</li> <li>7. Ways of Seeing/The Gaze</li> <li>8. Feminism</li> <li>9. Feminism</li> <li>10. Post-colonialism</li> <li>11. Post-colonialism</li> <li>12. Marxism</li> <li>13. Marxism</li> <li>14. New Historicism</li> <li>15. Post-structuralism/deconstruction</li> </ol>				

文学研究科 英語英米文学専攻 修士課程		研究分野／領域	アメリカ文学		
授業コード	M2141	授 業 科 目	アメリカ文学演習		
担 当 者	広瀬 佳司	授 業 形 態	演習		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I ~ II
授 業 概 要	シンシア・オジックやバーナード・アラマッド等の文学をアメリカ文学の枠組みとヨーロッパ文学の中で捉えながら吟味する。				
到 達 目 標	ユダヤ系作家で修士論文が書けるように指導したい。				
成 績 評 価 基 準	毎回の発表とレポート提出。				
留 意 事 項	毎回作品を分析するので必ず読み終えていること。				
教 材	クラスで配布する。				
授 業 予 定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ユダヤ系現代アメリカ文学のイントロダクション。</li> <li>2. ユダヤ系現代アメリカ文学のイントロダクション。</li> <li>3. 女流作家シンシア・オジックの世界。</li> <li>4. 女流作家シンシア・オジックの世界。</li> <li>5. 女流作家シンシア・オジックの世界。”The Shawl”を検証する。</li> <li>6. 女流作家シンシア・オジックの世界。ホロコーストの歴史。</li> <li>7. 女流作家シンシア・オジックの世界。ヘンリー・ジェームズとの関係。</li> <li>8. 女流作家シンシア・オジックの世界。アイザック・シンガーとの関係。</li> <li>9. バーナード・アラマッドの世界。</li> <li>10. アメリカ作家の特徴とユダヤ人としてのアイデンティティ。</li> <li>11. アメリカ作家の特徴とユダヤ人としてのアイデンティティ。</li> <li>12. アメリカ作家の特徴とユダヤ人としてのアイデンティティ。</li> <li>13. フィリップ・ロスの世界。</li> <li>14. フィリップ・ロスの世界——アメリカ同化の問題。</li> <li>15. フィリップ・ロスの世界——アメリカ同化の問題。</li> <li>16. テスト</li> <li>17. フィリップ・ロスの世界——”The Conversion of the Jews” 改宗の問題。</li> <li>18. フィリップ・ロスの世界——”The Conversion of the Jews” 改宗の問題。</li> <li>19. フィリップ・ロスの世界——”The Conversion of the Jews” 改宗の問題。</li> <li>20. フィリップ・ロスの世界——”The Conversion of the Jews” 改宗の問題。</li> <li>21. フィリップ・ロス——”Defender of the Faith” ユダヤ教への憧れ。</li> <li>22. フィリップ・ロス——”Defender of the Faith” ユダヤ教への憧れ。</li> <li>23. フィリップ・ロス——”Defender of the Faith” ユダヤ教への憧れ。</li> <li>24. フィリップ・ロス——”Defender of the Faith” ユダヤ教への憧れ。</li> <li>25. フィリップ・ロス——”Eli, the Fanatic” 宗教と狂気。</li> <li>26. フィリップ・ロス——”Eli, the Fanatic” 宗教と狂気。</li> <li>27. フィリップ・ロス——”Eli, the Fanatic” 宗教と狂気。</li> <li>28. フィリップ・ロス——”Eli, the Fanatic” 宗教と狂気。</li> <li>29. スティーヴ・スターンの世界を探る。</li> <li>30. スティーヴ・スターンの世界を探る——<i>The Wedding Jester</i></li> <li>31. スティーヴ・スターンの世界を探る——<i>The Wedding Jester</i></li> <li>32. テスト</li> </ol>				

文学研究科 英語英米文学専攻 修士課程		研究分野／領域	アメリカ文学		
授業コード	M 2 1 6 0	授 業 科 目	アメリカ文学演習		
担 当 者	David Ramsey	授 業 形 態	演習		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I ~ II
授 業 概 要	This advanced graduate seminar will investigate prose fiction of the early 20th century in the period between the world wars.				
到 達 目 標	We will focus our attention on five writers: Sherwood Anderson, William Faulkner, Nella Larsen, F. Scott Fitzgerald, and Ernest Hemingway. We will also look briefly at some very influential writers of verse and nonfiction, such as T.S. Eliot and Gertrude Stein.				
成績評価基準	Active class participation (40%); presentations (30%); essays (30%).				
留 意 事 項					
教 材	Many materials will be provided, but students will need to borrow or buy their own copies of the texts indicated below:				
授 業 予 定	<p>Schedule First Semester:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction to 20th century American literature</li> <li>2. Review of literary periods, critical terms and methods</li> <li>3. Anderson, <i>Winesburg, Ohio</i></li> <li>4. Anderson, <i>Winesburg, Ohio</i></li> <li>5. Anderson, <i>Winesburg, Ohio</i></li> <li>6. Faulkner, <i>Go Down, Moses</i></li> <li>7. Faulkner, <i>Go Down, Moses</i></li> <li>8. Faulkner, <i>Go Down, Moses</i></li> <li>9. Faulkner, <i>Go Down, Moses</i></li> <li>10. Faulkner, <i>Go Down, Moses</i></li> <li>11. Faulkner criticism/scholarship</li> <li>12. The Harlem Renaissance</li> <li>13. Larsen, <i>Passing</i></li> <li>14. Larsen, <i>Passing</i></li> <li>15. Larsen, <i>Passing</i></li> </ol> <p>Schedule Second Semester:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. The Lost Generation</li> <li>2. Stein, excerpts from <i>The Making of Americans</i></li> <li>3. Eliot, "Tradition and the Individual Talent"</li> <li>4. Fitzgerald, <i>The Great Gatsby</i></li> <li>5. Fitzgerald, <i>The Great Gatsby</i></li> <li>6. Fitzgerald, <i>The Great Gatsby</i></li> <li>7. Fitzgerald, <i>The Great Gatsby</i></li> <li>8. Fitzgerald, <i>The Great Gatsby</i></li> <li>9. Fitzgerald criticism/scholarship</li> <li>10. Hemingway, <i>The Sun Also Rises</i></li> <li>11. Hemingway, <i>The Sun Also Rises</i></li> <li>12. Hemingway, <i>The Sun Also Rises</i></li> <li>13. Hemingway, <i>The Sun Also Rises</i></li> <li>14. Hemingway, <i>The Sun Also Rises</i></li> <li>15. Hemingway criticism/scholarship</li> </ol>				

文学研究科 英語英米文学専攻 修士課程		研究分野／領域	英語学言語学		
授業コード	M2200	授業科目	英語学言語学特論 I		
担当者	木津 弥佳・山部 順治	授業形態	講義		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II
授業概要	動詞の意味と出来事構造の関係を考える。また、動詞と時間副詞の関係がどのようなものかを実際の例文を見ながら考え、検証していく。				
到達目標	論文の主張を理解し、実際の用例からその妥当性を判断する。				
成績評価基準	テキストの理解 (50%)、レポート (50%)				
留意事項					
教材	M.Rappaport et al. : Lexical Semantics, Syntax, and Event Structure				
授業予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Linguistic representation of event structure</li> <li>2. Lexical representation</li> <li>3. Root and event schemas</li> <li>4. The lexicalization constraint</li> <li>5. Refining the notion of manner and result</li> <li>6. Manner and result as scalar and non-scalar changes</li> <li>7. A motivation for the lexicalization constraint</li> <li>8. Verbs, Constructions, and Semantic Frames</li> <li>9. Semantic frames</li> <li>10. Verbs</li> <li>11. Constraints on a verb meaning</li> <li>12. Manner or result/change of location</li> <li>13. Combinations of verb and construction</li> <li>14. Combinations of verb and construction</li> <li>15. まとめ</li> <li>16. Syntactic and semantic composition of event structure</li> <li>17. Semantics of aspectual for-phrase</li> <li>18. Semantics of aspectual for-phrase</li> <li>19. Predicate types</li> <li>20. Event measurement and containment</li> <li>21. Atelic eventualities</li> <li>22. Telic eventualities</li> <li>23. Telic adverbs</li> <li>24. Telic adverbs</li> <li>25. Constraints on modifiers</li> <li>26. Relative shortness</li> <li>27. Modified quantifiers</li> <li>28. Discontinuity</li> <li>29. Questioning</li> <li>30. まとめ</li> </ol>				

文学研究科 英語英米文学専攻 修士課程		研究分野／領域	英語学言語学		
授業コード	M 2 2 1 0	授 業 科 目	英語学言語学特論 II		
担 当 者	坂口 真理	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	英語の副詞の機能的・意味的分析を扱った Greenbaum の古典的文献を批判的に読んでいく。また、日英語比較対照の視点から、彼の副詞の分類が日本語の副詞にも適用できるか考察する。				
到 達 目 標	英語の論文の読解力を養い、批判的に考える力を養う。				
成 績 評 価 基 準	授業中の発表 (30%) と 1 期と 2 期のレポート課題 (70%) によって評価する。				
留 意 事 項	毎回の授業のために、十分予習をすること。授業で読む文献は、教員が用意する。				
教 材	Greenbaum, Sidney (1969) <i>Studies in English Adverbial Usage</i> Longman: London				
授 業 予 定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究の範囲と方法</li> <li>2. 副詞の分類 (conjuncts, disjuncts, and adjuncts) とその基準</li> <li>3. conjuncts の意味的分類と統語的特徴</li> <li>4. Enumerative conjuncts</li> <li>5. Additive conjuncts (<i>again, also, then, etc.</i>)</li> <li>6. Transitional conjuncts (<i>incidentally, now</i>)</li> <li>7. Contrastive conjuncts</li> <li>8. Concessive conjuncts (<i>only, else, yet, nevertheless, still, however, etc.</i>)</li> <li>9. Illative (<i>so, hence, therefore, etc.</i>)</li> <li>10. Inferential conjuncts (<i>then, else, otherwise</i>)</li> <li>11. Style disjuncts (<i>honestly, frankly/ personally, generally</i>) の統語的特徴</li> <li>12. Attitudinal disjuncts の分類と特徴</li> <li>13. (<i>not</i>) <i>unexpectedly, ideally, predictably, preferably, maybe, likely</i></li> <li>14. Attitudinal disjuncts と adjuncts との違い</li> <li>15. <i>surely, indeed, certainly, actually, really, possibly</i></li> <li>16. Temporal disjuncts (<i>rarely, usually, conventionally, traditionally, preferably</i>)</li> <li>17. Temporal adjuncts (<i>usually and often</i>)</li> <li>18. Attitudinal disjuncts の位置、区切り方、音調</li> <li>19. Attitudinal disjuncts が関わる構造</li> <li>20. Attitudinal disjuncts の意味分類</li> <li>21. Attitudinal disjuncts と他の文の要素</li> <li>22. ～ 23. 副詞の分類と変形</li> <li>24. ～ 26. 日本語との比較対照</li> <li>27. ～ 30. Greenbaum の分析の利点と問題点</li> </ol>				

文学研究科 英語英米文学専攻 修士課程		研究分野／領域	英語学言語学				
授業コード	M 2 2 3 0	授 業 科 目	英語学言語学特論 III				
担 当 者	Robert Waring	授 業 形 態	講義				
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II		
授 業 概 要	This course will deepen the students' understanding of both the practical and theoretical sides of second language acquisition.						
到 達 目 標	The aim of the course is to develop a deep understanding of second language acquisition.						
成 績 評 価 基 準	Assessment will include ongoing assessment of in-class performance and of a combination of reports and projects.						
留 意 事 項	This is an English only course and students are expected to participate actively in class.						
教 材	To be decided in line with students' needs.						
授 業 予 定	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> Semester I  1 Course introduction / orientation  2 Course introduction / orientation  3 Background to language education  4 Background to language education  5 Background to language education  6 Background to language education  7 Background to language education  8 Background to language education  9 Theory and practice 1  10 Theory and practice 2  11 Theory and practice 3  12 Theory and practice 4  13 Theory and practice 5  13 Theory and practice 6  15 Theory and practice 7  16 Test and Comments </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> Semester II  17 Course introduction  18 Introducing second language acquisition  19 The linguistics of second language acquisition  20 The psychology of second language acquisition  21 Social contexts of second language acquisition  22 Methodological considerations 1  23 Methodological considerations 2  24 Brief history of individual difference research  25 Language aptitude  26 Motivation  27 Language learning strategies 1  28 Language learning strategies 2  29 Additional cognitive and affective influences on language learning  30 Interactions  31 Course summary  32 End of semester test and comments </td> </tr> </table>					Semester I 1 Course introduction / orientation 2 Course introduction / orientation 3 Background to language education 4 Background to language education 5 Background to language education 6 Background to language education 7 Background to language education 8 Background to language education 9 Theory and practice 1 10 Theory and practice 2 11 Theory and practice 3 12 Theory and practice 4 13 Theory and practice 5 13 Theory and practice 6 15 Theory and practice 7 16 Test and Comments	Semester II 17 Course introduction 18 Introducing second language acquisition 19 The linguistics of second language acquisition 20 The psychology of second language acquisition 21 Social contexts of second language acquisition 22 Methodological considerations 1 23 Methodological considerations 2 24 Brief history of individual difference research 25 Language aptitude 26 Motivation 27 Language learning strategies 1 28 Language learning strategies 2 29 Additional cognitive and affective influences on language learning 30 Interactions 31 Course summary 32 End of semester test and comments
Semester I 1 Course introduction / orientation 2 Course introduction / orientation 3 Background to language education 4 Background to language education 5 Background to language education 6 Background to language education 7 Background to language education 8 Background to language education 9 Theory and practice 1 10 Theory and practice 2 11 Theory and practice 3 12 Theory and practice 4 13 Theory and practice 5 13 Theory and practice 6 15 Theory and practice 7 16 Test and Comments	Semester II 17 Course introduction 18 Introducing second language acquisition 19 The linguistics of second language acquisition 20 The psychology of second language acquisition 21 Social contexts of second language acquisition 22 Methodological considerations 1 23 Methodological considerations 2 24 Brief history of individual difference research 25 Language aptitude 26 Motivation 27 Language learning strategies 1 28 Language learning strategies 2 29 Additional cognitive and affective influences on language learning 30 Interactions 31 Course summary 32 End of semester test and comments						

文学研究科 英語英米文学専攻 修士課程		研究分野／領域	英語学言語学		
授業コード	M 2 2 7 1	授 業 科 目	英語学言語学演習		
担 当 者	坂口 真理	授 業 形 態	演習		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I ~ II
授 業 概 要	英語の副詞類の統語的・意味的分析に必要な理論を学ぶ。Jackendoff (1972) と McCawley(1988) の生成文法の分析を土台に、主語指向性について書かれた Wyner (1998) 等を読む。				
到 達 目 標	英語における副詞の主語指向性に関する文献を読み、資料を収集し、修士論文を作成する。				
成 績 評 価 基 準	授業中の発表 (30%) と 1 期と 2 期のレポート課題 (70%) によって評価する。				
留 意 事 項	英語の言語学の文献を批判的に読めるように、予習を十分すること。授業で読む文献は教員が用意する。				
教 材	① Jackendoff (1972) <i>Semantic Interpretation in Generative Grammar</i> (第3章) ② McCawley (1988) <i>The Syntactic Phenomena of English. Vol.2</i> (19. Adverbs) ③ Bellert (1977) "On Semantic and Distributional Properties of Sentential Adverbs" ④ Wyner (1998) "Subject-oriented Adverbs are Thematically Dependent"				
授 業 予 定	1. ①の後半から引き続き読む 2. 投射規則 3. 主語指向性、受身、サイクル 4. 副詞と助動詞倒置変形 5. 文中に複数ある副詞の語順 6. 前置詞句と挿入句への一般化 7. まとめ 8. ②の精読 9. 助動詞の位置と副詞の位置との関係 10. ~ 11. さらなる副詞の統語上の問題点 12. ①と②の共通点と相違点 13. ③の精読 14. ~ 15. 文副詞の意味と分布について発表(修士論文の骨子を作成する。) 16. ④の精読と並行して、英語で論文を書いていく。(定期的にかきためたものを検討。) 17. reluctantly のような副詞 (TDAs) に関する先行研究 18. 統語構造の条件 19. 主題役割の条件 20. 表層の主語の主題役割の性質 21. 副詞に関する Event-Semantics による分析 22. 主題役割に依存する副詞について理論 23. ~ 30. ①~④の精読から得られたものを議論し、修士論文の完成に向けて論点を整理していく。				



文学研究科 英語英米文学専攻 修士課程		研究分野／領域	英語学言語学		
授業コード	M 2 2 9 0	授 業 科 目	英語学言語学演習		
担 当 者	Robert Waring	授 業 形 態	演習		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I ~ II
授 業 概 要	This course will develop the students' understanding of the theoretical sides of English language classroom practice.				
到 達 目 標	The aim of the course is to develop a deep understanding of the Japanese language teaching classroom.				
成 績 評 価 基 準	Assessment will include ongoing assessment of in-class performance and of a combination of reports and projects.				
留 意 事 項	This is an English only course and students are expected to participate actively in class.				
教 材	To be decided in line with students' needs.				
授 業 予 定	The first semester will concentrate on deepening the understanding of the basic principles of classroom practice. The second semester will focus on developing classroom materials, developing a sense of lesson and unit flow, and learning how to construct a syllabus.				

文学研究科 英語英米文学専攻 修士課程		研究分野／領域	専門関連科目		
授業コード	M2300	授 業 科 目	聖書学特論		
担 当 者	原田 豊己	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	文学作品には、新旧約聖書からの直接引用や神学テーマをもとに創作されたものが多数見受けられる。文学作品の主要テーマを研究するに当たり、文学作品に取り上げられている箇所や聖書学的な背景を研究することは不可欠なことである。聖書解釈の歴史を通して聖書学の研究方法を学ぶことにより、作品の主要テーマの内容を的確に把握するとともに、作者への聖書の影響を理解することができるようになる。さらに聖書写本学、聖書翻訳史を学ぶことにより文学作品の時代背景を理解できるようになる。				
到 達 目 標	聖書学の方法論を用いて文学作品の主要テーマを探り、作者への聖書の影響を理解する。				
成 績 評 価 基 準	年2回のレポートおよび授業内の討議・発表により総合的に評価する。				
留 意 事 項	一部に演習形式も取り入れる。適宜、図書館、聖堂などを使用する。				
教 材	毎回の授業で新旧約聖書を使用する。必要に応じてプリントを配布する。参考文献は授業で指示する。				
授 業 予 定	1期 1 インTRODクシヨN 旧約聖書概論 2 ヘブライ語アルファベット 3 モーセ五書その1 編集の問題 4 モーセ五書その2 歴史的出来事 5 モーセ五書その3 人間理解 6 歴史書その1 歴史的出来事 「バビロニア捕囚」 7 歴史書その2 神学 「罪と罰」 8 預言書その1 歴史的出来事 「バビロニア捕囚」 9 預言書その2 神学 「苦しみに意味がある」 10 詩篇 類型と神学 「嘆きと賛美」 11 知恵文学 12 黙示文学 13 旧約聖書神学その1 「契約」「創造」 14 旧約聖書神学その2 「神の義」「罪と罰」 15 旧約聖書神学その3 旧約聖書の人間論用語  2期 1 新約聖書概論 2 ギリシア語アルファベット 3 共感福音書その1 四資料説 4 共感福音書その2 その神学1 「神の愛」 5 共感福音書その3 その神学2 「神の国（支配）」 6 ヨハネ福音書 7 パウロの書簡 8 聖書解釈の歴史 古代 9 聖書解釈の歴史 中世 10 聖書解釈の歴史 近世 11 聖書解釈の歴史 現代 12 新約聖書の旧約聖書引用その1 イエス誕生物語 13 新約聖書の旧約聖書引用その2 イエス受洗記述 14 新約聖書の旧約聖書引用その3 イエス受難物語 15 新約聖書の旧約聖書引用その4 十字架上でのイエスの最後の言葉				

文学研究科 英語英米文学専攻 修士課程		研究分野／領域	専門関連科目		
授業コード	M2310	授 業 科 目	キリスト教思想特論 I		
担 当 者	高木 孝子	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	日本におけるキリスト教の研究には、欧米のキリスト教史や、社会史・文化史・女性史との密接な学際的視点が必要である。しかし特に、これまで、本格的なアメリカ研究に基礎付けられた日本キリスト教史の研究がなされたとは言い難い。そこで、本講義では、日本におけるキリスト教研究を、アメリカ女性宣教師研究の文脈上に位置付けた研究を行って行きたい。				
到 達 目 標	フェミニスト神学の視座から光をあて、女性をめぐるイデオロギーとステータスの相関性について探究していきたい。				
成 績 評 価 基 準	授業の参加、発表態度等を総合的に判断する。				
留 意 事 項	人生の重要な課題である「人間の尊厳」について学ぶ好機として、積極的な参加を期待する。				
教 材	参考文献や資料はその都度紹介・配付する。				
授 業 予 定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本キリスト教史について</li> <li>2. 欧米のキリスト教史について</li> <li>3. アメリカ女性宣教師研究について</li> </ol>				

文学研究科 英語英米文学専攻 修士課程		研究分野／領域	専門関連科目				
授業コード	M 2 3 2 0	授 業 科 目	キリスト教思想特論Ⅱ				
担 当 者	袴田 渉	授 業 形 態	講義				
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II		
授 業 概 要	英米文学はキリスト教にちなんだ表現に満ちている。本授業では、英米文学を読み解くために必須となるキリスト教文化を学ぶ。前期には、旧約・新約聖書の内容をテキスト（和訳）と共に学び、後期には、日本人にとって馴染みの薄いキリスト教の行事や風習について、映像資料等を用いて学ぶことで、キリスト教文化の多面的な理解を目指す。						
到 達 目 標	キリスト教文化を理解し、これに基づく英米文学上の表現を読み解くことができる。						
成 績 評 価 基 準	授業参加度（50%）、期末レポート（50%）						
留 意 事 項	本授業では、教員による講義に終始せず、場合により演習形式も取り入れる。						
教 材	毎回の授業で旧約・新約聖書を参照する。参考文献については、授業内で指示する。						
授 業 予 定	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> 1 期  1 インTRODakション  2 創世記  3 出エジプト記  4 レビ記  5 申命記  6 イザヤ書  7 エレミヤ書  8 箴言  9 詩篇  10 福音書（1）共観福音書  11 福音書（2）ヨハネによる福音書  12 使徒言行録  13 使徒の手紙  14 ヨハネの黙示録  15 まとめ </td> <td style="vertical-align: top; padding-left: 20px;"> 2 期  1 インTRODakション  2 クリスマス  3 公現祭  4 謝肉祭  5 四旬節  6 復活祭  7 聖霊降臨祭  8 万聖節とハロウィーン  9 7つの秘跡  10 罪と告解  11 天国と地獄  12 悪魔  13 天使  14 マリア信仰  15 まとめ </td> </tr> </table>					1 期 1 インTRODakション 2 創世記 3 出エジプト記 4 レビ記 5 申命記 6 イザヤ書 7 エレミヤ書 8 箴言 9 詩篇 10 福音書（1）共観福音書 11 福音書（2）ヨハネによる福音書 12 使徒言行録 13 使徒の手紙 14 ヨハネの黙示録 15 まとめ	2 期 1 インTRODakション 2 クリスマス 3 公現祭 4 謝肉祭 5 四旬節 6 復活祭 7 聖霊降臨祭 8 万聖節とハロウィーン 9 7つの秘跡 10 罪と告解 11 天国と地獄 12 悪魔 13 天使 14 マリア信仰 15 まとめ
1 期 1 インTRODakション 2 創世記 3 出エジプト記 4 レビ記 5 申命記 6 イザヤ書 7 エレミヤ書 8 箴言 9 詩篇 10 福音書（1）共観福音書 11 福音書（2）ヨハネによる福音書 12 使徒言行録 13 使徒の手紙 14 ヨハネの黙示録 15 まとめ	2 期 1 インTRODakション 2 クリスマス 3 公現祭 4 謝肉祭 5 四旬節 6 復活祭 7 聖霊降臨祭 8 万聖節とハロウィーン 9 7つの秘跡 10 罪と告解 11 天国と地獄 12 悪魔 13 天使 14 マリア信仰 15 まとめ						

文学研究科 英語英米文学専攻 修士課程		研究分野／領域	専門関連科目		
授業コード	M2330	授 業 科 目	英語科教育特論		
担 当 者	伊藤 豊美	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	英語教育学の基礎・基本を理解し、より高度な内容を研究する。特に、文部科学省学習指導要領に基づく具体的な指導技術を高めるとともに、言語（母語・外国語）習得の過程や学習者研究の在り方について考察する。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語科教育の背景となる専門性を高めるとともに、高い指導技術を身に付ける。</li> <li>英語そのものの高い運用能力を身に付ける。</li> </ul>				
成 績 評 価 基 準	授業時の発表（40%）、レポートの内容（30%）、指導技術の習得状況（30%）により、総合的に評価する。				
留 意 事 項	一部、演習形式を取り入れて、英語技能そのものの訓練も実施する。				
教 材	<ul style="list-style-type: none"> <li>文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』、『高等学校学習指導要領 外国語編・英語編』</li> <li>その他、授業時に必要資料を配付する。</li> </ul>				
授 業 予 定	第1回 オリエンテーション 第2回 国際社会における英語 第3回 世界の英語教育事情 第4回 日本の英語教育の史的展望(1) 江戸末期～大正 第5回 " (2) 昭和～平成 第6回 英語教授法の変遷(1) The Grammar Translation Method & Direct Methods 第7回 " (2) The Oral Method 第8回 " (3) The Oral Approach 第9回 " (4) The Cognitive Approach 第10回 " (5) Communicative Language Teaching (CLT) 第11回 英語科教育教材論(1) 言語材料についての知識 第12回 " (2) 言語活動のための教材開発 第13回 " (3) 異文化理解のための教材開発 第14回 " (4) 誤答分析からの知見 第15回 英語科教育方法論(1) コミュニケーションをめぐる考察 第16回 " (2) 4技能の実践的指導法① リスニング 第17回 " (3) " ② スピーキング 第18回 " (4) " ③ リーディング 第19回 " (5) " ④ ライティング 第20回 " (6) 異文化理解教育への対応 第21回 学習指導要領(1) 歴史的展望—学習指導要領の変遷 第22回 " (2) 作成過程と内容構成 第23回 " (3) 中学校における学習指導要領のねらい 第24回 " (4) 高等学校における学習指導要領のねらい 第25回 " (5) 学習指導要領と検定教科書 第26回 " (6) 教育課程の編成 第27回 英語科教育評価論(1) 英語科教育とテスト 第28回 " (2) 各種テスト例と作成上の留意点 第29回 英語科教育学習者論 学習者の実態と要因 第30回 英語科教育教師論 英語教員のミニマム・エッセンシャルと研修 定期試験				

文学研究科 社会文化学専攻 修士課程		研究分野／領域	社会学		
授業コード	M3000	授 業 科 目	地域社会学特論		
担 当 者	二階堂 裕子	授 業 形 態	講義（演習を含む）		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I ~ II
授 業 概 要	この授業は、講義のほか、受講生による報告や討論を交えながら進められる。講義では、農村社会と都市社会における様々な動向を取り上げ、それらを捉えるための手がかりについて解説を加えるとともに、農村と都市の間にある補助的關係について考察する。また、地域社会学の領域における事例研究の成果を取り上げ、輪読を行う。				
到 達 目 標	①地域社会学領域の重要な概念、および研究の視点と方法について理解を深める。 ②日本の地域社会が直面している諸課題を、多元的かつ相対的に捉える能力を培う。				
成 績 評 価 基 準	報告の準備、討論への参加、および期末レポートにより、総合的に評価する。				
留 意 事 項	特になし				
教 材	参考文献は、授業中に指示する。その他、資料などは授業中に適宜紹介する。				
授 業 予 定	第1回 オリエンテーション 第2回 「農村と都市の社会学」入門 第3回 輪読（1） 第4回 農村社会の変容 第5回 輪読（2） 第6回 農村女性の活躍 第7回 輪読（3） 第8回 B級グルメと地域活性化 第9回 輪読（4） 第10回 グリーン・ツーリズムの展開 第11回 輪読（5） 第12回 グローバル化と農村社会 第13回 輪読（6） 第14回 都市化の進行 第15回 輪読（7） 第16回 都市の貧困 第17回 輪読（8） 第18回 都市の「エステ化」 第19回 輪読（9） 第20回 地方都市の「ファスト風土化」 第21回 輪読（10） 第22回 グローバル化と都市 第23回 輪読（11） 第24回 都市の同郷団体 第25回 輪読（12） 第26回 歴史的町並みの保存活動 第27回 輪読（13） 第28回 都市とアート 第29回 輪読（14） 第30回 沖縄社会の都市的生活様式				

文学研究科 社会文化学専攻 修士課程		研究分野／領域	社会学		
授業コード	M3010	授業科目	社会心理学特論		
担当者	土井 隆義	授業形態	講義		
期間	集中	単位数	4	対象年次	I II
授業概要	現代日本の青年層をとりまく社会環境は、経済格差の拡大に見られるように、非常に厳しい状況にあります。しかし、この世代の生活満足度はきわめて高く、したがってこの世代の犯罪率は激減しています。このような社会環境と社会意識のギャップをどのように理解したらよいのでしょうか。この授業では、社会心理学の知見を用いつつ、この謎の解明へと迫っていきます。				
到達目標	現代日本の青年層に特徴的に見受けられる社会意識の特徴と、そこから派生している諸問題について、後期近代という社会背景から分析し、理解することを目標とします。また、その理解をつうじて、社会心理学の知見を現実の諸問題へと応用するテクニックの修得も目指します。				
成績評価基準	講義の理解度とその知識を現実の問題へ応用する能力をレポートと口述試験で評価します。				
留意事項	授業中はぜひ積極的に質問し、自分に関心のあるトピックへの応用方法を考えてください。				
教材	とくに指定しません。授業中に、講義の内容に関連する参考文献を順次紹介していきます。				
授業予定	<p>【第Ⅰ部】 しあわせの構造 ～現代青年の幸福と不安～</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プロローグ～いま、青年とは誰のことなのか～</li> <li>2. 青年期の社会的格差（1）～劣化する経済的基盤～</li> <li>3. 青年期の社会的格差（2）～社会制度と格差化～</li> <li>4. 流動化する現代社会（1）～青年期の幸福と不安～</li> <li>5. 流動化する現代社会（2）～人間関係の規制緩和～</li> <li>6. リスク化する人間関係（1）～アノミー化する人間関係～</li> <li>7. リスク化する人間関係（2）～人間関係の新たなジレンマ～</li> <li>8. ポスト近代化の時代（1）～成長社会から成熟社会へ～</li> <li>9. ポスト近代化の時代（2）～フラット化する世界～</li> <li>10. 変貌する承認の構図（1）～世代間格差の変容～</li> <li>11. 変貌する承認の構図（2）～自由から承認へ～</li> <li>12. 青年期の新たな心性（1）～生活圏の内閉化～</li> <li>13. 青年期の新たな心性（2）～新しい幸福観の勃興～</li> <li>14. ネオニヒリズムの時代（1）～生活圏の分断化～</li> <li>15. ネオニヒリズムの時代（2）～新しい人間観の陥穽～</li> </ol> <p>【第Ⅱ部】 変質する逸脱行動の現状と課題 ～後期近代の心性～</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>16. プロローグ～いま、逸脱とはどんな行為なのか～</li> <li>17. 犯罪統計の読み方（1）～世界の選択的認知～</li> <li>18. 犯罪統計の読み方（2）～認知バイアスの陥穽～</li> <li>19. 犯罪統計の読み方（3）～数値の裏面を読む～</li> <li>20. 犯罪統計の読み方（4）～統制活動という変数～</li> <li>21. 貧困問題と逸脱行動（1）～経済環境と刑法犯～</li> <li>22. 貧困問題と逸脱行動（2）～個人変数と社会変数～</li> <li>23. 相対的剥奪と逸脱行動（1）～前期近代のエートス～</li> <li>24. 相対的剥奪と逸脱行動（2）～中期近代のエートス～</li> <li>25. 相対的剥奪と逸脱行動（3）～後期近代のエートス～</li> <li>26. 人間関係と逸脱行動（1）～文化学習と差別的接触～</li> <li>27. 人間関係と逸脱行動（2）～世代間対立の縮減～</li> <li>28. 人間関係と逸脱行動（3）～逸脱文化の融解～</li> <li>29. 変容する社会統制（1）～逸脱の包摂から排除へ～</li> <li>30. 変容する社会統制（2）～規律訓練から環境管理へ～</li> </ol>				

文学研究科 社会文化学専攻 修士課程		研究分野／領域	社会学		
授業コード	M3020	授業科目	宗教社会学特論		
担当者	谷 富夫	授業形態	講義		
期間	集中	単位数	4	対象年次	I II
授業概要	現代宗教に関する実証的研究と、宗教社会学の古典的文献を学習する。扱う現代宗教は、伝統宗教、新宗教、エスニック宗教など多岐に及ぶ。古典は、M. ウェーバー、E. デュルケーム、G. ジンメルなどの基本文献を取り上げる。				
到達目標	宗教社会学の視点と理論を修得するとともに、現代宗教に対する批判的かつ多角的な理解力を身につける。				
成績評価基準	受講態度 30% 試験 70%				
留意事項	あくまで「価値自由 value free」の立場に立った講義なので、特定の信仰をもっている方でもそうでない方でも、安心して受講されたい。 必ず前回までの講義ノートと配布資料を持参の上、出席のこと。				
教材	参考書等は授業中に適宜指示する。資料も適宜配布する。ビデオ等も使用の予定。				
授業予定	第1回 宗教と社会：前期のはじめに 第2回 記憶のなかの宗教 第3回 日常生活のなかの宗教（1）：グループワーク 第4回 日常生活のなかの宗教（2）：考察 第5回 カルト宗教の批判的分析（1）：オウム真理教の場合 第6回 カルト宗教の批判的分析（2）：統一教会の場合 第7回 カルト宗教の批判的分析（3）：摂理の場合 第8回 若者と宗教：カルト宗教の批判的考察 第9回 現代に生きる伝統宗教（1）：厳島神社の瀬戸内信仰圏 第10回 現代に生きる伝統宗教（2）：かくれキリシタンの集団改宗 第11回 宗教の階層的展開（1）：戦前 第12回 宗教の階層的展開（2）：戦後 第13回 都市とエスニック宗教（1）：オールドタイマー 第14回 都市とエスニック宗教（2）：ニューカマー 第15回 現代社会と宗教：中間考察 第16回 古典に学ぶ：後期のはじめに 第17回 M. ウェーバーの宗教社会学（1）：『プロ倫』を読む 第18回 M. ウェーバーの宗教社会学（2）：視点 第19回 M. ウェーバーの宗教社会学（3）：理論 第20回 M. ウェーバーの宗教社会学（4）：現代的意義 第21回 E. デュルケームの宗教社会学（1）：『宗教生活の基本形態』を読む 第22回 E. デュルケームの宗教社会学（2）：視点 第23回 E. デュルケームの宗教社会学（3）：理論 第24回 E. デュルケームの宗教社会学（4）：現代的意義 第25回 G. ジンメルの宗教社会学（1）：『宗教の社会学』を読む 第26回 G. ジンメルの宗教社会学（2）：視点 第27回 G. ジンメルの宗教社会学（3）：理論 第28回 G. ジンメルの宗教社会学（4）：現代的意義 第29回 古典と現代の対話 第30回 宗教社会学の可能性：結論 定期試験				



文学研究科 社会文化学専攻 修士課程		研究分野／領域	社会学		
授業コード	M3080	授 業 科 目	家族社会学特論		
担 当 者	山下 美紀	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	本講義では、まず家族研究の基礎となる理論、分析方法、学説史などの基本を学ぶ。つぎに、古典的な家族論から家族社会学分野の最新の研究成果を取り上げ、輪読形式で報告、討論を行い、理解を深める。				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家族研究の基礎知識を身に付ける</li> <li>・ 家族にかかわる諸現象を社会構造の変動と関連付けて、体系的・歴史的な枠組みに沿って理解できる</li> <li>・ 社会学的なものの見方、課題発見能力、社会学的想像力を身に付ける</li> </ul>				
成 績 評 価 基 準	上記に掲げた目標の到達度について、平常点（出席・発表・発言）と、期末に求めるレポートにより、総合的に評価する。				
留 意 事 項					
教 材	適宜、文献・論文をを紹介し、プリント・資料を配布する				
授 業 予 定	<p>1. イントロダクション（家族研究への招待）</p> <p>2～10. 家族研究の基礎知識</p> <p>家族の歴史</p> <p>家族の構造と機能</p> <p>婚姻の成立</p> <p>家族・同族・親族</p> <p>家族問題</p> <p>家族観の系譜</p> <p>11～20. 家族史と古典的家族論</p> <p>パーソンズ・・家族 - 核家族と子どもの社会化</p> <p>アリエス・・子供の誕生 - アンシャンレジーム期の子供と家族生活</p> <p>マリノウスキー・・性・家族・社会</p> <p>ラドクリフ＝ブラウン・・未開社会における構造と機能</p> <p>マードック・・社会構造 - 核家族の社会人類学</p> <p>戸田貞三・・家族構成</p> <p>有賀喜左衛門・・家</p> <p>21～30. 近年の家族研究</p> <p>カンター&amp;レアー・・家族の内側 - 家族システム理論入門</p> <p>ドンズロ・・家族に介入する社会</p> <p>渡邊秀樹他編・・現代家族の構造と変容</p> <p>日本家政学会編・・現代家族を読み解く 12 章</p> <p>『家族社会学』掲載論文などを使用</p>				

文学研究科 社会文化学専攻 修士課程		研究分野／領域	社会学		
授業コード	M3090	授業科目	社会集団・組織論特論		
担当者	濱西 栄司	授業形態	講義		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II
授業概要	社会集団・組織論（社会学）における代表的な理論として、前半では Olson の集合行為論、後半では Zald、McCarthy、McAdam らによる資源動員論をとりあげ、各々の方法論的特徴や背景、可能性、限界等について説明していく。適宜、関連する歴史社会学／社会史的研究（Durkheim、Weber、Friedman、Touraine、Tilly 他）も紹介する。				
到達目標	理論の特徴や背景、可能性、限界について正確に理解し、もってさまざまな社会組織（特にその因果的メカニズム）を分析するための専門的な知識・技能を修得する。				
成績評価基準	授業への姿勢、口頭発表、課題レポート等にもとづき、総合的に評価を行なう。				
留意事項	一部、演習方式も取り入れる。				
教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必携テキスト：特になし</li> <li>・参考書：森脇俊雄、2000、『集団・組織』東京大学出版会 塩原勉編、1989、『資源動員と組織戦略』新曜社</li> <li>・参考資料：適宜、プリントなどを配布する。</li> </ul>				
授業予定	<p>授業計画</p> <p>第1回：序論——目的合理的行為と社会学</p> <p>第2回：集団・組織形成の前提</p> <p>第3回：公共選択アプローチ</p> <p>第4回：集合財とフリーライダー問題</p> <p>第5回：選択的誘因と集団規模、政治的企業家</p> <p>第6回：利益集団論へのインパクト</p> <p>第7回：オルソン批判と現代政治</p> <p>第8回：事例・実験による検証</p> <p>第9回：集合行為問題と民主政治(1) 経済発展</p> <p>第10回：集合行為問題と民主政治(2) 国家論</p> <p>第11回：組織の維持・存続</p> <p>第12回：離脱・発言・忠誠</p> <p>第13回：組織間関係論(1)</p> <p>第14回：組織間関係論(2) 社会学的組織連関論</p> <p>第15回：公共選択アプローチの意義と限界</p> <p>第16回：資源動員論の位置(1) 集合行動論との関係</p> <p>第17回：資源動員論の位置(2) 資源動員論の意義</p> <p>第18回：動員論の理論的展開(1) 合理的理論</p> <p>第19回：動員論の理論的展開(2) 崩壊から連帯へ</p> <p>第20回：動員論の理論的展開(3) 功利主義的理論</p> <p>第21回：動員論の実証(1) ジェンダー</p> <p>第22回：動員論の実証(2) エスニシティ</p> <p>第23回：動員論の実証(3) 環境問題</p> <p>第24回：動員論の課題(1) 合理性問題</p> <p>第25回：動員論の課題(2) ミクロとマクロ</p> <p>第26回：動員論の課題(3) 実証可能性</p> <p>第27回：動員論の課題(4) 労働論</p> <p>第28回：動員論の課題(5) NSM 論</p> <p>第29回：国際的研究の現状(1) 理論の分裂</p> <p>第30回：国際的研究の将来(2) 組織から集団へ</p>				

文学研究科 社会文化学専攻 修士課程		研究分野／領域	社会史																																
授業コード	M3100	授 業 科 目	日本社会史特論 I																																
担 当 者	西尾 和美	授 業 形 態	講義																																
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II																														
授 業 概 要	第1期では、地震、飢饉、飢え、疫病、暴力、戦争など、日本中世社会の人々の営みの前提となった生活環境の諸問題を取り上げ、講義する。第2期では、その環境下で人々がいかに生存を支え合い、どのような心性や思惟のもとで生きたのかについて、講義する。																																		
到 達 目 標	中世を中心に日本社会の歴史について知識と理解を深め、歴史と社会に対する分析力と考察力を高める。																																		
成 績 評 価 基 準	発表 40% 年間2回のレポート 60%																																		
留 意 事 項	適宜、演習形式を交えて講義を進める。																																		
教 材	プリントを配付する。																																		
授 業 予 定	<table border="0"> <tr> <td>第1回：「中世の生活環境」序論</td> <td>第16回：「中世社会を生きる」序論</td> </tr> <tr> <td>第2回：中世の気候</td> <td>第17回：中世宗教の成立</td> </tr> <tr> <td>第3回：中世の災害と時間</td> <td>第18回：六道輪廻と生命観</td> </tr> <tr> <td>第4回：中世社会と地震</td> <td>第19回：他界と現世</td> </tr> <tr> <td>第5回：中世前期の地震</td> <td>第20回：中世人の心性</td> </tr> <tr> <td>第6回：中世後期の地震</td> <td>第21回：中世人の泣き</td> </tr> <tr> <td>第7回：中世社会と飢饉</td> <td>第22回：中世人の怒りと恨み</td> </tr> <tr> <td>第8回：中世前期・後期の飢饉</td> <td>第23回：家と養育</td> </tr> <tr> <td>第9回：飢えと疫病</td> <td>第24回：家と寺</td> </tr> <tr> <td>第10回：飢えと麦作</td> <td>第25回：縁と無縁</td> </tr> <tr> <td>第11回：暴力・武力・戦争と中世社会</td> <td>第26回：出家・遁世・旅</td> </tr> <tr> <td>第12回：領主支配と暴力</td> <td>第27回：定住と非定住</td> </tr> <tr> <td>第13回：暴力・戦争と死傷・障がい</td> <td>第28回：身分と言語</td> </tr> <tr> <td>第14回：武力とジェンダー</td> <td>第29回：地域と言語</td> </tr> <tr> <td>第15回：「中世の生活環境」総括</td> <td>第30回：「中世社会を生きる」総括</td> </tr> </table>					第1回：「中世の生活環境」序論	第16回：「中世社会を生きる」序論	第2回：中世の気候	第17回：中世宗教の成立	第3回：中世の災害と時間	第18回：六道輪廻と生命観	第4回：中世社会と地震	第19回：他界と現世	第5回：中世前期の地震	第20回：中世人の心性	第6回：中世後期の地震	第21回：中世人の泣き	第7回：中世社会と飢饉	第22回：中世人の怒りと恨み	第8回：中世前期・後期の飢饉	第23回：家と養育	第9回：飢えと疫病	第24回：家と寺	第10回：飢えと麦作	第25回：縁と無縁	第11回：暴力・武力・戦争と中世社会	第26回：出家・遁世・旅	第12回：領主支配と暴力	第27回：定住と非定住	第13回：暴力・戦争と死傷・障がい	第28回：身分と言語	第14回：武力とジェンダー	第29回：地域と言語	第15回：「中世の生活環境」総括	第30回：「中世社会を生きる」総括
第1回：「中世の生活環境」序論	第16回：「中世社会を生きる」序論																																		
第2回：中世の気候	第17回：中世宗教の成立																																		
第3回：中世の災害と時間	第18回：六道輪廻と生命観																																		
第4回：中世社会と地震	第19回：他界と現世																																		
第5回：中世前期の地震	第20回：中世人の心性																																		
第6回：中世後期の地震	第21回：中世人の泣き																																		
第7回：中世社会と飢饉	第22回：中世人の怒りと恨み																																		
第8回：中世前期・後期の飢饉	第23回：家と養育																																		
第9回：飢えと疫病	第24回：家と寺																																		
第10回：飢えと麦作	第25回：縁と無縁																																		
第11回：暴力・武力・戦争と中世社会	第26回：出家・遁世・旅																																		
第12回：領主支配と暴力	第27回：定住と非定住																																		
第13回：暴力・戦争と死傷・障がい	第28回：身分と言語																																		
第14回：武力とジェンダー	第29回：地域と言語																																		
第15回：「中世の生活環境」総括	第30回：「中世社会を生きる」総括																																		

文学研究科 社会文化学専攻 修士課程	研究分野／領域	社会史			
授業コード	M3120	授業科目	日本社会史特論Ⅱ		
担当者	藤實 久美子	授業形態	講義		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I II
授業概要	副題は「近世の政治文化論・書籍文化論」。徳川日本における文化事業の政治的企図、将軍権威について考え、さらに「知」の質を問いつつ、その伝播を探る方法論を切りひらく。また第27回～第29回の授業では、戊辰戦争期の新政府によるメディア利用について考え、徳川日本と明治政府の断絶面を明確にする。				
到達目標	政治・イデオロギー的理由により秘匿された「知」の存在とその伝播の回路、蓄積形態を考察し、徳川日本における出版文化を相対的に捉えるとともに、「マージナル史料論」の可能性を確認する。加えて、徳川日本社会の特徴を把握するとともに、徳川日本と明治政府とのメディア文化に対する接し方の違いを学修する。				
成績評価基準	授業内活動50%、学期末レポート50%により評価する。				
留意事項	教材テキストをあらかじめ用意し、受講者全員が各授業で講義する箇所について事前に読み、疑問点を整理したのちに、授業に臨むこと。授業後は、授業時に提示された参考文献のなかから論文をいくつか選び、読み、自主学習を進めること。				
教材	藤實久美子『近世書籍文化論』（吉川弘文館）。その他の資料は配布する。				
授業予定	第1回 史料研究の現在 第2回 書籍史料研究—マージナル史料論—の現在 第3回 書肆出雲寺家の創業とその活動（1） 第4回 書肆出雲寺家の創業とその活動（2） 第5回 書肆出雲寺家の創業とその活動（3） 第6回 「本朝通鑑」編修と史料蒐集（1） 第7回 「本朝通鑑」編修と史料蒐集（2） 第8回 「本朝通鑑」編修と史料蒐集（3） 第9回 「本朝通鑑」編修と史料蒐集（4） 第10回 「御当家紀年録」の編纂とその秘匿（1） 第11回 「御当家紀年録」の編纂とその秘匿（2） 第12回 紅葉山文庫の管理と書物師出雲寺家（1） 第13回 紅葉山文庫の管理と書物師出雲寺家（2） 第14回 近世書籍の史料論的認識 第15回 「徳川実紀」への書籍史料論的アプローチ 第16回 近世書籍史料の目録作成方法 第17回 近世書籍文化論の総括と展望 第18回 『国史館日録』の講読（1） 第19回 『国史館日録』の講読（2） 第20回 『国史館日録』の講読（3） 第21回 『近藤正斎全集』の講読（1） 第22回 『近藤正斎全集』の講読（2） 第23回 『近藤正斎全集』の講読（3） 第24回 「書物方日記」の講読（1） 第25回 「書物方日記」の講読（2） 第26回 「書物方日記」の講読（3） 第27回 官板日誌の史料論的考察（1） 第28回 官板日誌の史料論的考察（2） 第29回 官板日誌の史料論的考察（3） 第30回 総括				

文学研究科 社会文化学専攻 修士課程		研究分野／領域	社会史		
授業コード	M3140	授 業 科 目	アジア社会史特論		
担 当 者	鈴木 真	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	近世中国における科举・宗族・思想の問題を中心に、当時の漢人社会のあり方について、歴史学の観点より考察する。				
到 達 目 標	近世中国の漢人社会における科举制度の理念・実態について、理解を深める。				
成 績 評 価 基 準	授業に取り組む姿勢・口頭発表・課題レポートの内容等により、総合的に評価する。				
留 意 事 項	一部、演習形式もとり入れる。				
教 材	講義中に指示する。				
授 業 予 定	第 1 回：講義概要 第 2 回：中国史における官僚制度と社会 第 3 回：封建制と郡県制 第 4 回：官僚登用制度の変遷①（漢） 第 5 回：官僚登用制度の変遷②（魏晋） 第 6 回：官僚登用制度の変遷③（南北朝） 第 7 回：科举の導入と理念 第 8 回：科举による政治的影響 第 9 回：科举による思想的影響 第 10 回：科举による社会的影響 第 11 回：科举の隆盛と宗族の形成 第 12 回：北宋における宗族 第 13 回：南宋における宗族 第 14 回：明朝における宗族 第 15 回：清朝における宗族 第 16 回：近世中国の宗教倫理 第 17 回：科举と商人社会 第 18 回：浙江における商人と文人 第 19 回：ある塩商の系譜 第 20 回：清朝の野史 第 21 回：清朝における思想統制 第 22 回：清朝における「文字の獄」①（康熙年間） 第 23 回：清朝における「文字の獄」②（雍正年間） 第 24 回：清朝における「文字の獄」③（乾隆年間） 第 25 回：清朝における繙訳科举 第 26 回：旗人の応試とその意義 第 27 回：清朝社会における科举・官僚小説 第 28 回：『儒林外史』 第 29 回：『官場現形記』 第 30 回：まとめ 定期試験				

文学研究科 社会文化学専攻 修士課程		研究分野／領域	社会史		
授業コード	M3150	授 業 科 目	ヨーロッパ社会史特論		
担 当 者	轟木 広太郎	授 業 形 態	講義・演習		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I ~ II
授 業 概 要	<p>テーマ「ヨーロッパ史において「統治」とはいかなることを意味したか」          ヨーロッパの中世から現代にいたるまで、人や国家を統治するということがどのようなことを意味したかを、時代順に考察していく。この場合の「統治」とは、権力者が自分のいうことをきかせて支配するというのではなく、何らかの合理性に依拠しながら人々をある目標に向けて導き、歴史的に特異な経験を現出させる、といった少々変わった意味で用いている。身近な例をあげると、誰もが知っている保険は、統計的な合理性に基づいたリスク管理というあたらしい経験を現代人にもたらしたひとつの統治方式といえるだろう。こうした経験の歴史の系譜をたどってみるのが本授業のねらいである。</p>				
到 達 目 標	<p>史料を用いた読解・分析力を身に付ける。          歴史的な思考センスを養う。</p>				
成 績 評 価 基 準	レポート70%、報告30%				
留 意 事 項	ある程度演習形式を取り入れた授業とする。				
教 材	参考文献等については、授業中に配布する。				
授 業 予 定	<p>第1回 「統治」概念についての説明          第2～6回 中世の統治；トマス・アキナス          第7～10回 ルネサンス時代の統治；マキャヴェッリ          第11～15回 近世の統治；国家理性論          第16～20回 近世の統治；ポリス論          第21～25回 近代の統治；重商主義          第26～30回 現代の統治；ドイツ新自由主義</p>				

文学研究科 社会文化学専攻 修士課程		研究分野／領域	社会史		
授業コード	M3220	授 業 科 目	日本民俗学特論		
担 当 者	小嶋 博巳	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	日本の民俗宗教の基本構造と歴史について研究する。とくに、民俗宗教を形成する一つの契機である定住と遍歴の交渉に注目し、遍歴宗教者と、定住民の一時的遍歴としての巡礼をとりあげる。また、民俗社会における信仰・知識のあり方について考察する。				
到 達 目 標	日本民俗学をはじめとする民俗宗教研究の立脚点を理解し、あわせて日本の伝統的社会のしくみとその宗教・知識のあり方に対する理解を深める。				
成 績 評 価 基 準	期末にレポート提出を求め、それによって評価する。 (授業中の発表の評価を加味する)				
留 意 事 項	一部、演習形式もとり入れる。				
教 材	必要な資料は配付する。また参考文献は授業中に指示する。				
授 業 予 定	1. 民俗および民俗宗教という概念 2. 遍歴者と定住社会 3. 遍歴宗教者の組織と活動 4. 巡礼という宗教 5. 伝承・俗信——民俗社会の知識				

文学研究科 社会文化学専攻 修士課程		研究分野／領域	社会史		
授業コード	M3260	授 業 科 目	考古学特論		
担 当 者	紺谷 亮一	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	考古学的視点から当時の社会を復元することを目指す。さらに文献資料とのコラボレーションの可能性と限界を学ぶ。ケーススタディとして主に西アジアを取り上げる。				
到 達 目 標	人類史における、考古学の役割と可能性を具体的な事例で説明できるようにする。				
成 績 評 価 基 準	口頭発表、レポート等で評価する。				
留 意 事 項	適時、美術館、博物館見学も行う。				
教 材	テキスト、ビデオ等				
授 業 予 定	1. 人類の起源 2. 農耕の発生 3. 都市の勃興 4. 金属文化の解釈 5. 考古学の未来像 以上を柱に授業を遂行する。				

文学研究科 社会文化学専攻 修士課程		研究分野／領域	専門関連科目		
授業コード	M3300	授 業 科 目	社会言語学特論		
担 当 者	尾崎 喜光	授 業 形 態	講義（演習を含む）		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	フォーマルな文体を旨とすることから現代においても古典文法や古風な言いまわしが現われやすい校歌の歌詞に注目し、共同作業により校歌を多数収集・蓄積してデータベース化し、履修者が関心を持つ観点からそれぞれ分析することで、校歌の歌詞の現状を多角的に把握する。また、校歌が作られた時代別に分析することで、使用表現の変化の有無や変化の方向性を明らかにする。				
到 達 目 標	フォーマルな文体を有する書き言葉の実態および近過去からの変化を明らかにするためのデータ収集法を習得するとともに、それをデータベース化して分析・報告する方法を習得する。				
成 績 評 価 基 準	授業内活動および各期末に提出する分析レポートによる。				
留 意 事 項	インターネットを利用したデータ収集と、PC（エクセル）によるデータの蓄積・分析を必須とする。PC（エクセル）の使用方法は授業の中で解説する。その際はノートPCを持参すること。作業自体は基本的に授業時間外に行ない、授業においては主としてその分析結果の報告と検討を行なう。				
教 材	特になし				
授 業 予 定	データ収集に関する方針の検討。 データの蓄積方法・分析方法についての解説。 分析結果の報告と検討。				

文学研究科 社会文化学専攻 修士課程		研究分野／領域	専門関連科目		
授業コード	M3310	授 業 科 目	社会文学特論 I		
担 当 者	綾目 広治	授 業 形 態	講義（演習を含む）		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	大正期から現代に至るまでの文芸批評史を展望する。代表的な評論、および文学論争の読解を通して、現代文学史において何が問題にされてきたのか、さらにそれらの問題と社会との関わりについて考察する。さらに大衆小説に焦点を絞って、作家や出版者さらに読者などからなる出版文化と、その歴史的意義についても考察する。従って、この講義は社会的な視野から見た現代文学史の講義であり、また、広い意味での現代社会思想史でもある。				
到 達 目 標	社会の問題と関わる現代批評、現代思想についての展望を得る。				
成 績 評 価 基 準	演習での発表。				
留 意 事 項	当該テキスト以外にも関連文献を幅広く読む。				
教 材	適宜指示する。				
授 業 予 定	1. 文学研究方法論 2. 戦前昭和の批評 3. 戦後批評 4. 現代批評 5. 批評理論				



文学研究科 社会文化学専攻 修士課程		研究分野／領域	専門関連科目		
授業コード	M3320	授 業 科 目	社会文学特論Ⅱ		
担 当 者	広瀬 佳司	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	アメリカのユダヤ系作家と、その作品を取り上げて、作家活動や作品の分析を通して、ユダヤ系移民と、それを取り巻くアメリカ社会の関係を考察する。				
到 達 目 標	アメリカのユダヤ社会の特質を、ニューヨークを中心に理解できるようにしたい。				
成 績 評 価 基 準	レポート				
留 意 事 項	英文資料を十分に予習しておくこと。				
教 材	教室で指示。				
授 業 予 定	1～16 アイザック・シンガー，シンシア・オジックの短編を読む。 17～32 スティーヴ・スターン，ジョシュア・シンガーの短編を読む。				

文学研究科 社会文化学専攻 修士課程	研究分野／領域	専門関連科目			
授業コード	M3330	授 業 科 目	文化人類学特論		
担 当 者	加藤 正春	授 業 形 態	講義		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	前期は、人間生活の基本単位としての家族について、家族関係学、社会学、民俗学、文化人類学等の視角から検討する。講義では、家族関係学および家族研究の学説史を説くとともに、家族の多様性とその歴史的変容について具体的に論ずる。後期は、家族をとりまく宗教的諸事象について、幅広い観点から考察する。				
到 達 目 標	家族内の人間関係の構造的性質について理解すること、そのような性質が社会構造の変化によってどのように変容してきたかについて理解すること、家族と宗教的領域との関係に理解をもつことを目標とする。				
成 績 評 価 基 準	レポート (20%)、中間テスト (40%)、期末テスト (40%)				
留 意 事 項	一部、演習形式も取り入れる。				
教 材	講義のなかで指示する。必要な資料を配布する。				
授 業 予 定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族の研究史と研究視角 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 社会進化論と家族研究</li> <li>2) 文化圏説と家族論</li> <li>3) 機能構造的家族研究の開始</li> </ol> </li> <li>2. 家族と婚姻の基礎概念 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 核家族論</li> <li>2) 直系家族論</li> <li>3) 合同家族論</li> <li>4) 複雑家族論</li> <li>5) 婚姻に関する研究史</li> <li>6) 婚姻の定義をめぐって</li> <li>7) 近親相姦をめぐる学説史</li> <li>8) 対称的・非対称的婚姻体系</li> <li>9) 単婚と複婚</li> <li>10) 婚姻形態の基礎的分類</li> </ol> </li> <li>3. 日本の家族研究 (1) 鈴木栄太郎をめぐって</li> <li>4. 日本の家族研究 (2) 柳田国男をめぐって <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 大家族論</li> <li>2) 『先祖の話』にみる直系家族論</li> <li>3) 家族と先祖祭祀</li> </ol> </li> <li>5. 琉球列島家族論 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 奄美の家族</li> <li>2) 沖縄本島北部の家族</li> <li>3) 家系継承の禁忌をめぐって</li> </ol> </li> <li>6. 家族と墓制 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 琉球列島の共同墓制論 (1) 洗骨をともなわない改葬墓制</li> <li>2) 琉球列島の共同墓制論 (2) 洗骨積み重ね改葬</li> <li>3) 琉球列島の共同墓制論 (3) 洗骨銘書改葬</li> <li>4) 本土日本の共同墓制 (1) 単墓制</li> <li>5) 本土日本の共同墓制 (2) もう一つの単墓制</li> <li>6) 本土日本の共同墓制 (3) いわゆる両墓制</li> <li>7) 柳田国男の両墓制論 (1) 1929 年假説</li> <li>8) 柳田国男の両墓制論 (2) 1946 年假説</li> <li>9) 原田敏明の両墓制論</li> <li>10) 最上孝敬の両墓制論</li> </ol> </li> <li>7. テスト</li> </ol>				

文学研究科 社会文化学専攻 修士課程		研究分野／領域	専門関連科目				
授業コード	M3350	授 業 科 目	社会哲学特論				
担 当 者	崎川 修	授 業 形 態	講義				
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II		
授 業 概 要	現代の人間社会の様々な側面に見られるケアの営みについて、その社会哲学的、人間論的基盤を探求する。また、ケアが向かう社会的課題としての様々な暴力について考察し、その構造と論理を見つめながら、それらに向き合うためのケア実践の具体的なあり方を追求する。						
到 達 目 標	ケアの概念を人間の本質と関連付けて理解した上で、人間社会における実践上の困難としての暴力に向き合う臨床哲学的視座を獲得すること。						
成 績 評 価 基 準	授業時の発表、レポートの内容及び授業態度などを総合して評価する。						
留 意 事 項	特になし						
教 材	参加者と相談の上決定する。						
授 業 予 定	<table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <p>授業計画</p> <p>第1回：ケアの思想の問題領域について</p> <p>第2回：ケアの概念について</p> <p>第3回：現象としてのケア</p> <p>第4回：知覚と欲求</p> <p>第5回：意志と行為</p> <p>第6回：経験の構造</p> <p>第7回：参加者の発表と討論（ケアの本質）</p> <p>第8回：受苦の人間学</p> <p>第9回：ケアと宗教性</p> <p>第10回：実存哲学におけるケア（ハイデガー）</p> <p>第11回：ケアと自己実現（メイヤロフ）</p> <p>第12回：ライフサイクルとケア（エリクソン）</p> <p>第13回：ケアからドゥーリアへ（キテイ）</p> <p>第14回：参加者の発表と討論（ケアの可能性）</p> <p>第15回：中間総括</p> </td> <td style="vertical-align: top;"> <p>第16回：ケアの社会哲学的考察</p> <p>第17回：暴力の発生論</p> <p>第18回：親密圏における暴力</p> <p>第19回：公共圏における暴力</p> <p>第20回：構造としての暴力</p> <p>第21回：日常性と非日常性</p> <p>第22回：参加者の発表と討論（暴力の本質）</p> <p>第23回：排除と抑圧</p> <p>第24回：ホロコーストの論理</p> <p>第25回：トラウマの人間学</p> <p>第26回：脳科学とトラウマ</p> <p>第27回：身体から語りへ</p> <p>第28回：グリーンケアとナラティブ共同体</p> <p>第29回：参加者の発表と討論（ケアとナラティブ）</p> <p>第30回：総括</p> </td> </tr> </table>					<p>授業計画</p> <p>第1回：ケアの思想の問題領域について</p> <p>第2回：ケアの概念について</p> <p>第3回：現象としてのケア</p> <p>第4回：知覚と欲求</p> <p>第5回：意志と行為</p> <p>第6回：経験の構造</p> <p>第7回：参加者の発表と討論（ケアの本質）</p> <p>第8回：受苦の人間学</p> <p>第9回：ケアと宗教性</p> <p>第10回：実存哲学におけるケア（ハイデガー）</p> <p>第11回：ケアと自己実現（メイヤロフ）</p> <p>第12回：ライフサイクルとケア（エリクソン）</p> <p>第13回：ケアからドゥーリアへ（キテイ）</p> <p>第14回：参加者の発表と討論（ケアの可能性）</p> <p>第15回：中間総括</p>	<p>第16回：ケアの社会哲学的考察</p> <p>第17回：暴力の発生論</p> <p>第18回：親密圏における暴力</p> <p>第19回：公共圏における暴力</p> <p>第20回：構造としての暴力</p> <p>第21回：日常性と非日常性</p> <p>第22回：参加者の発表と討論（暴力の本質）</p> <p>第23回：排除と抑圧</p> <p>第24回：ホロコーストの論理</p> <p>第25回：トラウマの人間学</p> <p>第26回：脳科学とトラウマ</p> <p>第27回：身体から語りへ</p> <p>第28回：グリーンケアとナラティブ共同体</p> <p>第29回：参加者の発表と討論（ケアとナラティブ）</p> <p>第30回：総括</p>
<p>授業計画</p> <p>第1回：ケアの思想の問題領域について</p> <p>第2回：ケアの概念について</p> <p>第3回：現象としてのケア</p> <p>第4回：知覚と欲求</p> <p>第5回：意志と行為</p> <p>第6回：経験の構造</p> <p>第7回：参加者の発表と討論（ケアの本質）</p> <p>第8回：受苦の人間学</p> <p>第9回：ケアと宗教性</p> <p>第10回：実存哲学におけるケア（ハイデガー）</p> <p>第11回：ケアと自己実現（メイヤロフ）</p> <p>第12回：ライフサイクルとケア（エリクソン）</p> <p>第13回：ケアからドゥーリアへ（キテイ）</p> <p>第14回：参加者の発表と討論（ケアの可能性）</p> <p>第15回：中間総括</p>	<p>第16回：ケアの社会哲学的考察</p> <p>第17回：暴力の発生論</p> <p>第18回：親密圏における暴力</p> <p>第19回：公共圏における暴力</p> <p>第20回：構造としての暴力</p> <p>第21回：日常性と非日常性</p> <p>第22回：参加者の発表と討論（暴力の本質）</p> <p>第23回：排除と抑圧</p> <p>第24回：ホロコーストの論理</p> <p>第25回：トラウマの人間学</p> <p>第26回：脳科学とトラウマ</p> <p>第27回：身体から語りへ</p> <p>第28回：グリーンケアとナラティブ共同体</p> <p>第29回：参加者の発表と討論（ケアとナラティブ）</p> <p>第30回：総括</p>						

文学研究科 社会文化学専攻 修士課程		研究分野／領域	専門関連科目		
授業コード	M3360	授 業 科 目	社会・地理歴史科教育特論		
担 当 者	河合 保生	授 業 形 態	講義（演習を含む）		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I II
授 業 概 要	アクティブラーニングをはじめとする学校教育で求められている指導法の特徴を講義するとともに、社会科・地理歴史科教育に必要なフィールドワークやICTを活用した指導法を、実践を通じて学ぶ。また、人文地理学の研究手法と成果をもとにした社会科・地理歴史科教育のあり方について、演習を交え地理学的視座から考察する。				
到 達 目 標	社会科・地理歴史科教育における最新指導法の研究と地理指導のための資質・能力の向上をテーマとして授業を進める。それにより、社会科及び地理歴史科教育に必要な指導技術であるフィールドワーク、ICTや様々な地図資料を活用した教育方法を考察し、中学校や高等学校において積極的にアクティブラーニングを導入した授業が展開できる能力を習得する。また、地理学の素養を高め、社会科・地理歴史科教育で求められている高度な専門的資質と能力を身につける。				
成 績 評 価 基 準	授業時の発表（40%）・レポートの内容（40%）・指導技術の習得状況（20%）により評価する。				
留 意 事 項	授業時間外に学外でフィールドワークを行う。また、パソコンや地図などを使用した演習を実施する。				
教 材	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説社会編（文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説地理歴史編（文部科学省） 別に、授業時に必要資料を配付する。				
授 業 予 定	第1回 社会科・地理歴史科指導法の現状と課題 第2回 アクティブラーニング・反転授業など新しい指導法の特徴 第3回 地域調査方法論－巡検学習・地域調査の特徴と課題－ 第4回 巡検学習の実際（1）地形・農業 第5回 巡検学習の実際（2）都市・観光 第6回 巡検学習の実際（3）交通・消費活動 第7回 巡検学習の実際（4）先史時代・古代・中世の遺構 第8回 巡検学習の実際（5）近世の遺構 第9回 巡検指導の実際（6）近代－産業遺産を中心に－ 第10回 巡検指導の実践指導案の作成 第11回 地域調査の実践（1）商店街の調査 第12回 商店街調査結果の分析・発表 第13回 地域調査の実践（2）農村地域の調査 第14回 農村地域調査結果の分析・発表 第15回 GIS活用の基本と実践方法 第16回 カシミールを活用した教材作成と活用 第17回 MANDARA を活用した教材作成と活用 第18回 アドレスマッチングと立地分析 第19回 グローバル人材育成のための教材化の視点 第20回 グローバル人材育成のための社会科教材作成研究 第21回 歴史地理学の成果を活用した社会科指導（1）－荘園図を中心に－ 第22回 歴史地理学の成果を活用した社会科指導（2）－伊能図を中心に－ 第23回 旧版地形図を活用した社会科指導法研究 第24回 社会科教育と地理学（1）学校教育と地域 第25回 社会科教育と地理学（2）地域形成と学校の役割 第26回 社会科教育と地理学（3）学校統廃合の現状と課題 第27回 社会科教育と地理学（4）学校存続のための取り組み 第28回 社会科教育と地理学（5）地域形成とクリスタルモデル 第29回 社会科教育と地理学（6）主産地形成と地域おこし 第30回 社会科教育と地理学（7）市町村合併と地域の課題				

文学研究科 社会文化学専攻 修士課程		研究分野／領域	社会学		
授業コード	M3421	授 業 科 目	社会学演習		
担 当 者	山下 美紀	授 業 形 態	演習		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I ~ II
授 業 概 要	<p>家族社会学の領域にかかわる諸問題・諸現象の中から、各自の問題関心に沿った課題を設定するところから始まり、関心領域の研究意義と妥当性について吟味する。</p> <p>さらに、過去の研究成果を理解する、的確な手続きと方法によってデータを収集する、根拠のある分析を行う、研究成果について論理的に発表することを目指す。</p>				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 修士論文作成のための基礎知識・技能を身に付ける</li> <li>・ 各自の研究テーマを、社会の構造的・歴史的な枠組みに関連付けて理解する能力を身に付ける</li> <li>・ 実証的な調査によってデータを収集し、適切な方法を用いて分析し、知見を見出し、根拠のある主張を行う力を身に付ける</li> </ul>				
成 績 評 価 基 準	<p>平常点（出席・発表・討論）と、複数回提出してもらったレポートによって、総合的に評価する。</p>				
留 意 事 項	<p>学会や研究会への参加を求める</p>				
教 材	<p>教材については、授業中に指示する。適宜、文献、資料を配布する</p>				
授 業 予 定	<p>第1回～第5回：家族社会学領域の研究テーマと研究方法について 先行研究のレビューを中心に行う</p> <p>第6回～第15回：課題の設定 各自の研究テーマについて報告 先行研究の収集と整理・評価について発表 各自の研究テーマに関連する資料の収集 など</p> <p>第16回～第20回：研究の方向性の確定 研究方法 データの収集方法 分析方法などの策定 研究の枠組みと仮説の提示 など</p> <p>第21回～第30回：研究の進捗状況の報告と研究の仕上げ データの収集と分析 分析結果の報告 考察と課題について報告・討論 など</p>				

文学研究科 社会文化学専攻 修士課程		研究分野／領域	社会学		
授業コード	M3430	授 業 科 目	社会学演習		
担 当 者	二階堂 裕子	授 業 形 態	演習		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I ~ II
授 業 概 要	①地域社会学や都市社会学の領域を中心とした理論的基礎に関する学習、②フィールドワークをはじめとする社会調査・社会分析の方法に関する学習、③各自が関心をもつテーマ・分野に関する学習の3つを適宜組み合わせながら、研究能力の向上を図る。				
到 達 目 標	学術的社会的意義のある研究テーマを決め、それに基づいた調査・研究の計画を自主的に立て、それを実行していく力を養う。				
成 績 評 価 基 準	報告の準備、討論への参加、および期末レポートにより、総合的に評価する。				
留 意 事 項	フィールドワークを行う場合がある。				
教 材	参考文献は授業中に指示する。また、適宜資料を配布する。				
授 業 予 定	第1回 オリエンテーション 第2回 地域社会学や都市社会学、および社会調査法に関する文献解説 (1) 第3回 地域社会学や都市社会学、および社会調査法に関する文献解説 (2) 第4回 地域社会学や都市社会学、および社会調査法に関する文献解説 (3) 第5回 地域社会学や都市社会学、および社会調査法に関する文献解説 (4) 第6回 地域社会学や都市社会学、および社会調査法に関する文献解説 (5) 第7回 地域社会学や都市社会学、および社会調査法に関する文献解説 (6) 第8回 地域社会学や都市社会学、および社会調査法に関する文献解説 (7) 第9回 地域社会学や都市社会学、および社会調査法に関する文献解説 (8) 第10回 地域社会学や都市社会学、および社会調査法に関する文献解説 (9) 第11回 各自の研究テーマ、研究対象、調査方法に関する報告 (1) 第12回 各自の研究テーマ、研究対象、調査方法に関する報告 (2) 第13回 各自の研究テーマ、研究対象、調査方法に関する報告 (3) 第14回 各自の研究テーマ、研究対象、調査方法に関する報告 (4) 第15回 各自の研究テーマ、研究対象、調査方法に関する報告 (5) 第16回 データの収集と分析の結果に関する報告 (1) 第17回 データの収集と分析の結果に関する報告 (2) 第18回 データの収集と分析の結果に関する報告 (3) 第19回 データの収集と分析の結果に関する報告 (4) 第20回 データの収集と分析の結果に関する報告 (5) 第21回 データの収集と分析の結果に関する報告 (6) 第22回 データの収集と分析の結果に関する報告 (7) 第23回 研究テーマに関する考察と今後の課題についての報告 (1) 第24回 研究テーマに関する考察と今後の課題についての報告 (2) 第25回 研究テーマに関する考察と今後の課題についての報告 (3) 第26回 研究テーマに関する考察と今後の課題についての報告 (4) 第27回 研究テーマに関する考察と今後の課題についての報告 (5) 第28回 研究テーマに関する考察と今後の課題についての報告 (6) 第29回 研究テーマに関する考察と今後の課題についての報告 (7) 第30回 研究テーマに関する考察と今後の課題についての報告 (8)				

文学研究科 社会文化学専攻 修士課程		研究分野／領域	社会史				
授業コード	M3500	授 業 科 目	社会史演習				
担 当 者	西尾 和美	授 業 形 態	演習				
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I ~ II		
授 業 概 要	日本中世史の諸問題の中から各自のテーマを設定し、先行研究の講読と課題整理、関係史料の収集・分析、研究の構想・構成の作成、研究内容の形成、レポートの作成等、段階を踏んで研究の進展・完成に至るよう、各自の発表と指導・助言、全体討議によって授業を進める。						
到 達 目 標	全体テーマは「日本中世社会の諸問題」とし、各自が個別テーマを設定し、研究史の課題を明らかにするとともに、史料を読み進め、独自の研究の進展および完成を目指す。						
成 績 評 価 基 準	授業への取り組み（発表内容・討議）40% 年間2回のレポート 60%						
留 意 事 項	研究の進展および完成のために、授業外での取り組みを主体的に進めること。						
教 材	必要に応じてプリント配付する。						
授 業 予 定	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> 第 1 回：中世社会の諸問題  第 2 回：各自の問題関心  第 3 回：各自のテーマ設定  第 4 回：先行研究の収集方法  第 5 回：先行研究リストの作成  第 6 回：先行研究の収集  第 7 回：収集文献の講読  第 8 回：先行研究の課題整理  第 9 回：中世史の史料について  第 10 回：各自のテーマと史料  第 11 回：史料の収集  第 12 回：史料の講読  第 13 回：史料の分析  第 14 回：先行研究の論証の検討  第 15 回：新たな論証の可能性 </td> <td style="vertical-align: top; width: 50%;"> 第 16 回：研究の構想と構成について  第 17 回：各自の研究の第一構成案の作成  第 18 回：第一構成案による発表  第 19 回：第一構成案の討議  第 20 回：第一構成案の見直し  第 21 回：先行研究の補足収集  第 22 回：補足収集文献の講読  第 23 回：先行研究の課題再整理  第 24 回：補足史料の収集  第 25 回：補足史料の講読  第 26 回：補足史料の分析  第 27 回：各自の研究の第二構成案の作成  第 28 回：第二構成案による発表  第 29 回：第二構成案の討議  第 30 回：第二構成案の見直し </td> </tr> </table>					第 1 回：中世社会の諸問題 第 2 回：各自の問題関心 第 3 回：各自のテーマ設定 第 4 回：先行研究の収集方法 第 5 回：先行研究リストの作成 第 6 回：先行研究の収集 第 7 回：収集文献の講読 第 8 回：先行研究の課題整理 第 9 回：中世史の史料について 第 10 回：各自のテーマと史料 第 11 回：史料の収集 第 12 回：史料の講読 第 13 回：史料の分析 第 14 回：先行研究の論証の検討 第 15 回：新たな論証の可能性	第 16 回：研究の構想と構成について 第 17 回：各自の研究の第一構成案の作成 第 18 回：第一構成案による発表 第 19 回：第一構成案の討議 第 20 回：第一構成案の見直し 第 21 回：先行研究の補足収集 第 22 回：補足収集文献の講読 第 23 回：先行研究の課題再整理 第 24 回：補足史料の収集 第 25 回：補足史料の講読 第 26 回：補足史料の分析 第 27 回：各自の研究の第二構成案の作成 第 28 回：第二構成案による発表 第 29 回：第二構成案の討議 第 30 回：第二構成案の見直し
第 1 回：中世社会の諸問題 第 2 回：各自の問題関心 第 3 回：各自のテーマ設定 第 4 回：先行研究の収集方法 第 5 回：先行研究リストの作成 第 6 回：先行研究の収集 第 7 回：収集文献の講読 第 8 回：先行研究の課題整理 第 9 回：中世史の史料について 第 10 回：各自のテーマと史料 第 11 回：史料の収集 第 12 回：史料の講読 第 13 回：史料の分析 第 14 回：先行研究の論証の検討 第 15 回：新たな論証の可能性	第 16 回：研究の構想と構成について 第 17 回：各自の研究の第一構成案の作成 第 18 回：第一構成案による発表 第 19 回：第一構成案の討議 第 20 回：第一構成案の見直し 第 21 回：先行研究の補足収集 第 22 回：補足収集文献の講読 第 23 回：先行研究の課題再整理 第 24 回：補足史料の収集 第 25 回：補足史料の講読 第 26 回：補足史料の分析 第 27 回：各自の研究の第二構成案の作成 第 28 回：第二構成案による発表 第 29 回：第二構成案の討議 第 30 回：第二構成案の見直し						

文学研究科 社会文化学専攻 修士課程		研究分野／領域	社会史		
授業コード	M3521	授業科目	社会史演習		
担当者	紺谷 亮一	授業形態	演習		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I～II
授業概要	日本及び西アジアの考古学研究を中心とする。学生が選んだテーマに沿って、研究に関するフィールドワーク、資料、文献収集、分析等の方法論を習得し、考古学的考察ができるようにする。				
到達目標	調査・分析の方法論取得 どのような、そして小さなテーマでもかまわないので考古学的手法を駆使して、自らのオリジナリティーを発揮する。その際の対象項目は、新資料、再考察、研究史再考 etc なんでもかまわない。				
成績評価基準	調査・分析プロセス、口頭発表、レポート等で評価する。				
留意事項	考古学的な観察力を鍛えること				
教材	各自資料検索をする。その他関連資料は随時指示する。				
授業予定	最初は、担当教員が対象とするトルコ共和国における考古学調査を俎上に、いくつかの論点で紹介する。その様子を参考にしながら各自が選択したテーマに沿って適宜に行う。				



文学研究科 社会文化学専攻 修士課程		研究分野／領域	社会史		
授業コード	M3540	授 業 科 目	社会史演習		
担 当 者	鈴木 真	授 業 形 態	演習		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I ~ II
授 業 概 要	中国を中心とするアジア史の歴史学的研究をおこなう。国内外の先行研究の整理・関係史料の講読を進め、それらに並行して学生個々の研究テーマを設定し、研究を深化させる。				
到 達 目 標	先行研究にない「独自性」を盛り込んだ研究を心がける。				
成 績 評 価 基 準	口頭報告・課題レポートの内容によって評価する。				
留 意 事 項	特になし。				
教 材	講読用の史料・文献については、講義中に説明する。				
授 業 予 定	第 1 回：授業概要の説明 第 2～6 回：アジア史に関する文献の講読 第 7～10 回：学生個々の研究テーマに基づく研究報告①（先行研究の整理） 第 11～15 回：アジア史に関する基本的史料の講読 第 16～20 回：学生個々の研究テーマに基づく研究報告②（使用する史料の特徴） 第 21～25 回：学生個々の研究テーマに関する史料の講読 第 26～30 回：学生個々の研究テーマに基づく研究報告③（独自性について）				

文学研究科 社会文化学専攻 修士課程		研究分野／領域	専門関連科目		
授業コード	M3550	授 業 科 目	社会史演習		
担 当 者	轟木 広太郎	授 業 形 態	演習		
期 間	通年	単 位 数	4	対 象 年 次	I ~ II
授 業 概 要	ヨーロッパ社会史の領域に関わる諸問題のなかから、各自の問題関心に沿った課題を設定するところからはじまり、先行研究の吟味、史料の発見・読解を実践的に行う。				
到 達 目 標	修士論文作成を念頭に置いて、基礎的知識の習得、先行研究の整理、史料の考察・分析を重ねながら、各自のテーマに沿った研究の進展を目指す。				
成 績 評 価 基 準	発表や討議への参加、レポートによって総合的に評価する。				
留 意 事 項					
教 材	参考文献等については授業中に指示する。				
授 業 予 定	第 1～5 回 ヨーロッパ社会史の基本研究文献の検討 第 6～10 回 特定の史料を用いての読解演習 第 16～20 回 各自の研究テーマに関わる先行研究の紹介 第 21～30 回 個別テーマに応じた研究発表				

文学研究科 社会文化学専攻 修士課程		研究分野／領域	社会史		
授業コード	M3581	授業科目	社会史演習		
担当者	小嶋 博巳	授業形態	演習		
期間	通年	単位数	4	対象年次	I～II
授業概要	日本民俗学の諸課題のうちから学生が選んだテーマに沿って、民俗資料の収集（民俗調査を含む）と記述・分析、先行研究の収集と評価、さらには多角的視点からの考察を経験させ、研究能力の向上をはかる。				
到達目標	適切な研究テーマを設定し、自立的に調査・研究が進められるようになることをめざす。				
成績評価基準	授業中の発表と、レポートによって評価する。				
留意事項	調査実習を含む。				
教材	必要な資料は配付する。また参考文献は授業中に指示する。				
授業予定	1. 日本民俗学の方法 2. 民俗調査の歴史 3. 調査法 4. 民俗学文献解題 5. 学生の修士論文テーマにもとづく研究発表				